

第 8 回ニュルンベルク市青少年 国際交流派遣事業報告書



ニュルンベルク市市長表敬訪問記念撮影



派遣期間:2022年8月4日(木)~8月17日(水)

派遣団員:NPO 法人新町スポーツクラブ・NPO 法人クラブおおづ

受入団体:ドイツ連邦共和国バイエルン州 ニュルンベルク市スポーツユーゲント

訪問都市:ニュルンベルク市・ドレスデン市(8月8日~8月10日 2泊3日のみ)

後援:群馬県スポーツ協会・高崎市

【はじめに】

第8回ニュルンベルク市青少年国際交流派遣事業は、コロナ禍のために5年ぶりの実施となりました。8月4日から始まった久しぶりの青少年国際交流は、ドイツ国内でも実際に異国の青少年達が交流する唯一のプログラムとなる交流でした。

今回は、日本とニュルンベルク市の青少年が交流する機会を作り出して、日独の青少年達が永く交流することに心血を注いで育ててくれたハイディさん(2022年7月7日没)とギュンターさん(7月12日没)ご夫妻の功績を称えて関係者で追悼する交流となりました。

今回の交流を実施するのか否か。昨年と同様にオンライン交流とするのかと様々な意見がある中、ニュルンベルク市、新町、大津町の担当者と通訳の高橋範子さんで計4回のオンライン会議で議論を重ねて2022年5月に実施を決定しました。

実施を決定した時期の日本の陽性者数は少なかったのですが、派遣する日が近くになった7月中旬から爆発的に増加したため、派遣団員が感染して参加できない者が出ないことを祈る毎日でした。

今回は、ウクライナから避難している青少年も交流に参加することから交流テーマを「戦争と平和」としてナチス時代のドイツの歴史、敗戦後の東西ドイツ分断の歴史、統一ドイツまでの厳しい道のりを統一ドイツになってから復元が実現したドレスデン聖母教会において意見交換会を行いました。このような機会は、団員達も私達大人も改めて、「戦争と平和」に真剣に向き合う貴重な時間となりました。

ニュルンベルク市で過ごした12日間、感染対策を徹底して安全に受入れるために尽力してくれた事務局のミハエルさん。タイトなスケジュールを円滑に遂行してくれた、ドリスさん、ナターシャさん、アリーナさん、マークさん、ドリスさんを陰で支えてくれたドリスさんのご主人シュテファンさん。そして、このプログラムを行うために必要な財源確保のために動いてくれたマリオ本部長。私達の青少年を快く受入れていただいたホストファミリーの皆さん、日本から快く派遣に同意していただいた保護者の皆さん、また、私と一緒に指導者として参加してくれた富田さんと補佐役として活躍してくれた藤堂さん等、この事業に関係したすべての皆さんに感謝いたします。

新町としてニュルンベルク市と青少年国際交流を開始した1999年から今年は23年目となり、この交流が団員達の人生に大きく影響を与えていることを示している先輩たちがたくさんいます。ドイツとの縁も地域に役立つ人材としても、これがスタートであり終わりではありません。今後は、この事業を継続するための人材として先輩たちと活躍してくれることを期待しています。

私は、今回の派遣団員についても今後の人生が豊かになり、より良い影響を与えて素晴らしい人生になることを祈ります。そして、来夏、ニュルンベルク市の青少年を日本にお迎えすることを楽しみにしています。

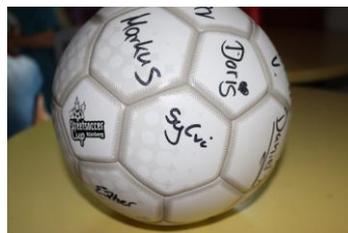
第8回ニュルンベルク市青少年国際交流派遣事業参加者名簿

NO	氏名	年齢	性別	所属
1	笠原到真	18	男	NPO法人新町スポーツクラブ
2	上井康雅	19	男	NPO法人新町スポーツクラブ
3	坂井花穂	19	女	NPO法人新町スポーツクラブ
4	水野巧望	17	男	NPO法人新町スポーツクラブ
5	小手川温陽	18	男	NPO法人新町スポーツクラブ
6	瀧澤千晴	15	女	NPO法人新町スポーツクラブ
7	中尾優衣	15	女	NPO法人新町スポーツクラブ
8	春山紗希	16	女	NPO法人新町スポーツクラブ
9	寒河江 凜	18	女	NPO法人新町スポーツクラブ
10	高木 涼華	23	女	NPO法人クラブおおづ
11	斎藤 理子	24	女	NPO法人クラブおおづ
12	東 瑞妃	21	女	NPO法人クラブおおづ
13	徳永 陽奈	17	女	NPO法人クラブおおづ
引率指導者&引率指導者補佐				
1	藤堂みく	21	女	NPO法人新町スポーツクラブ
2	富田拓夢	29	男	NPO法人新町スポーツクラブ
3	樋口秀一郎	44	男	NPO法人クラブおおづ
4	小出利一	64	男	NPO法人新町スポーツクラブ

第8回ニュルンベルク・新町・大津町青少年国際交流事業プログラム

日付	曜日	プログラム内容
8.4	木	新町発 13:39 羽田発 22:05 TK199 便
8.5	金	イスタンブール着発 5:15 8:20 TK1503 ニュルンベルク着 10:10 ホストファミリー対面式 18:00 から歓迎会
8.6	土	アルトドルフ TV1881 柔道スポーツクラブ交流(ご夫妻で世界選手権) スポーツバッチテスト①実施 立ち幅跳び、走り幅跳び、縄跳び オープンエアクラシックコンサート
8.7	日	ホストファミリーデー (1 回目コロナ抗原抗体検査実施)
8.8	月	ドレスデンへ移動 東西ドイツ分断の象徴的な村と旧市街地緑の美術館
8.9	火	ドレスデンの聖母教会にてドレスデンで東西ドイツ分断経験者と話し合 い、旧市街地見学等 フォルクスワーゲン工場見学、夜 スポーツ活動
8.10	水	ドレスデン(ラーテン・バスタイ橋ハイキング)からニュルンベルクへ移動 帰宅後 (2 回目コロナ抗原抗体検査実施)
8.11	木	ニュルンベルク市長表敬訪問、旧市街地内ウォーキング スポーツ交流(青少年オリンピック) 指導者は、夕食会
8.12	金	サッカースタジアム見学、ドキュメントミュージアム見学等
8.13	土	IFC ニュルンベルク水球クラブにて交流 スポーツバッチテスト②実施 ドイツ・ウクライナ・日本の青少年の3カ国交流 (3 回目コロナ抗原抗体検査実施)
8.14	日	9 時 空港のPCR センターにて帰国のためのPCR 検査実施 ホストファミリーデー、サヨナラパーティー
8.15	月	AM 日独青少年ニュルンベルク市内フリータイム PM ボーリング大会
8.16	火	AM 団員・指導者別の交流評価会 ニュルンベルク発 18:45 TK1506 イスタンブール着 22:40
8.17	水	イスタンブール発 2:20 TK198 羽田着 19:20 羽田空港から新幹線などを利用して高崎駅着 22:20

ニュルンベルク市滞在期間中の日誌



第1日目 8月4日(水)・第2日目 8月5日(木)

今日は、新町・大津町のメンバー全員がトラブルはあったものの、誰一人として欠けることなくドイツのニュルンベルクに到着したことが1番良かったと思います。

ニュルンベルクへの経由地点として寄ったイスタンブール空港はとても広くて印象的でした。そして、ホストファミリーとのファーストコンタクトでは少し沈黙になってしまう場面もありましたが、拙い英語でも自分なりに考えてどんどん喋っていくうちに積極的に話しかけられるようになり、より交流に対して前向きに出来、どんどん楽しくなりました。お昼は、アレックスのパパが作ってくれたシュニツェルでとても美味しかったです。ウェルカムパーティーまでの自由時間では、アレックスとその兄弟が地下鉄に乗ってダウンタウンへ連れて行ってくれました。地下鉄は、日本の地下鉄とは違う部分が多く新鮮でした。ダウンタウンでは古くから残されている建物や宗教に関する建物、更には近年のコロナウイルスに関する建物まであり、ひとつひとつの建物が日本と違いカラフルで色んな要素が詰まった都市でした。ウェルカムパーティーでは、ゲームなどで話したことのない人ともたくさん喋る機会があり交流を深めることが出来楽しかったです。

第3日目 8月6日(金)

昨日ニュルンベルク市に到着し、ウェルカムパーティーを終え、今日はニュルンベルクの施設でスポーツバジテストを行いました。短い1日ですが、すごく刺激的で、驚いたことがたくさんありました。

一つ目は、朝起きると、とても気候が心地よく、すっきり目覚めることができたことです。日本では、朝からとてもジメジメとした特有の暑さがありますが、ドイツの朝はとても涼しく、空気もカラッとしていて、本当に過ごしやすかったです。また昨夜、ニュルンベルク市内を少し歩いたのですが、夜もとてもいい気候で、羨ましく思う反面、日本の夏を少しでも逃れたれたことに喜びすら感じました。

二つ目は、僕のホームステイ先は、ニュルンベルクから離れた、エアランゲンにあり、ニュルンベルクに行く時には高速道路を使います。ドイツの法定速度が日本より速いことは知っていましたが、普通の道路でも100キロで走行して、高速道路になると、常に150キロ強で走っていて、それでも隣の車線を違う車両が抜かしていくほどでした。僕は、いわゆる絶叫アトラクションなどが好きなタイプで、怖いとは感じないのですが、別車両も普通に走っている中、150キロが出た時には、流石に少し怖くなりました。事故などが起こらないのか？と聞いたところ、あまり頻繁に起こる様子でもなさそうだったのでそれにも驚きました。これが、スポーツカーなど、速度が出る車だったら、もっと面白いだろうなと感じたりもしました。

ニュルンベルク市の施設に着くと、そこは柔道場で、中には沢山のトロフィーが飾ってありました。今日は、中では縄跳び、外では立ち幅跳びと、走り幅跳びをスポーツバ

ッジテストとして行いました。僕は、日本で何回かホームステイを受け入れたことがあり、ドイツとの交流プログラムにも参加していたので、ドイツ人の運動神経の良さは知っていましたが、ドイツの人達は、みんなができなくても何回もトライし、各自でアドバイスをしあったり、質問してみたり、とてもスポーツに対して積極的で改めて驚きました。私達も、それにつられて一生懸命やろうと、めげずに頑張っていて、ドイツ交流の良さを発見できた機会にもなりました。縄跳びの時に気付いたのですが、縄跳びは日本人の方が得意なのかなと思いました。僕達は小学生の頃から縄跳びを授業でしてきているので、縄跳びにとっても馴染みがありますが、ドイツの人達はどちらかといったら縄跳びはあまりしないのかなと思いました。

お昼は、ピザと果物を食べたのですが、ドイツの人達と一緒にいると常に手に何か食べるものを持っていて、ずっと食べたり飲んだりしていて、同じユースメンバーのとうま君と一緒に驚いていました。

隣では、ハンドボールの試合が行われていて、それにも驚かされました。なぜなら、日本では何かスポーツの試合を行う時には、ある程度、年齢別に分かれています。ましてや、性別も、男女できっちり分かれて、楽しむと言うより、勝ちにこだわるような試合の行われ方をしますが、今日見たハンドボールの試合では、年齢層も10代からおじさん、おばさんなどが参加していて、男女の区別もなくとても、驚きを持ったとともに、感心しました。日本とドイツのスポーツに対する決定的な違いを目の当たりにし、日本の愚かさも感じました。この文化を日本に取り入れることはとても重要で、あらゆる面において深い意味を持つと思いますが、簡単に文化が変わらないのも事実だと思います。しかし、この機会を無駄にせず、私達だけでもそのような文化や価値観を取り入れて生活していければなと思いました。

話が飛躍しますが、男女の区別や、年齢による差別、区別などは現在の日本でも多く見られ、例えば、ゆとり世代などとある世代を評してみたり、女性は家事を専門にするよう促されたり、くだらない価値観が蔓延っています。僕は先程いったドイツの文化や価値観を参考にできればこのような考え方はきっと無くすことができると思います。

2日目にしてこんなにたくさんの刺激を受けられたことにとっても感謝しています！明日からも楽しみが沢山待っていると思うので、コロナに気をつけて活動していきたいです。

第4日目 8月7日(日)

今日は、初めてのホストファミリーデーでした。昨日ソフィーにニュルンベルク動物園に行くよと言われて、とても今日が楽しみでした。しかし、私は興奮していたのか、朝起きて早々に鼻血を出すという事件を起こしました。ソフィーやママはカーペットを汚しても大丈夫だよと言ってきて、止めるのを手伝ってくれました。こんなに優しいホストファミリーに出会えた私はとても幸せだと感じました。

ニュルンベルク動物園はとても広くて、全てを見るためには1日では足りないところでした。日本では、いないような動物と友達くらいの感覚で触れ合えるところや、初めて見る動物がありとても楽しめました。

明日は、ドレスデンに行くために早く起きなければいけません。今夜は、初めてコロナ抗体検査を行って陰性で安心しました。明日は、今日のようなトラブルを起こさないよう、しっかり準備していきます。

第5日目 8月8日(月)

今日は、ニュルンベルク市から移動して、途中、東西ドイツに分断された時に村の真ん中で国境ができてしまった所を見学して、日本では体験できない国境について考えることができました。その後、ドレスデンに到着しました。ドレスデン市でもたくさんの施設に行きました。

私が最も印象に残ったのは、美術館に行ったことです。私は普段あまり美術館へ行きませんが、説明をしてくれた人のお陰でとても楽しめました。1つの象牙からできる作品や、すべて金でできている作品があり、昔の人がこんなに繊細で美しいものが作れることに驚きました。また、こんなに高価なものが作れる、当時の王室の裕福さに感心しました。すべての作品はとても強い思いが込められていて、作者の感じたことを現代の私も感じる事ができて、嬉しかったです。

明日は千羽鶴を聖母教会へプレゼントするので、なるべく綺麗なものが出来るように今夜みんなで力を合わせて頑張ります。

第6日目 8月9日(火)

今日は、一日中ドレスデンで過ごしました。午前中、聖母教会に行き、午後は通称「ガラスの工場」と言われている車の生産工場へ見学に行きました。聖母教会の見学では、私達だけのために9時から見学をさせてもらえる特別待遇で、東西ドイツの歴史を通して平和について考える良いきっかけになりました。日本で教会はあまり見かけたことがなかったのですが、なかったからこそ刺激的に勉強することができて、平和について新たな視点から考えることも出来ました。終戦間近の1945年に連合軍がドレスデンへの爆撃によって崩れ、50年間瓦礫となっていたとは思えない復元によって綺麗で素晴らしかったです。また、綺麗に再建した方々、再建に協力した世界中の方々の熱い思いを実感し感銘を受けました。教会内を見学した後は決定の部屋(地下の教会)に行き、みんなで平和や社会について意見交換をしました。3つの立場に分かれそれぞれの立場から意見を言い、自分にはない、平和や社会についての考えを知ることができたことがとても勉強になりました。今後、学校で戦争の歴史を学ぶ時や社会について考えることがあると思うので、そのような時にこの経験を活かしていきたいです。その後、神父さんの話と二万五千人もの人が亡くなった爆撃を受けたこと。東西ドイツ分裂で苦労した

シュナイダーさんの話を聞きました。神父さんがおっしゃった心と魂の傷を癒しながら平和を目指すことは容易ではないでしょう。シュナイダーさんは、どうして他の人は亡くなり自分は生き残っているのかという大きな疑問を抱える大きな心の傷を乗り越え、逆にそれを平和へと導いていてとても尊敬しました。この貴重な経験も今後活かしていきたいと思いました。車の生産工場内見学では、見たことのないような変わったデザインの車や近未来な技術が詰まった車が沢山あり車にあまり興味がない私でも楽しむことが出来ました。また、日本の自動車工場では想像できないような公園もあり、なおかつ、清潔な工場を見ることができ面白かったです。私は、そこのガイドさんの説明やビデオを通して車の結婚式など自動車に関する多くのことを学ぶことが出来ました。この経験で、私は少しですが車に対して興味を湧かせることができました。その後、いくつかのグループに分かれドレスデン市内を見学しました。私たちのグループは市内で写真を撮り、アイスクリーム屋さんに行きました。その時のアイスクリームはとても美味しかったです。全ての見学が終わった後、ユースホテルに戻り夕食を食べました。夕食のチキンもとても美味しかったです。今日最後のプログラムとして、バスで移動しミニゴルフをしました。私は、ミニゴルフは勿論、ゴルフもしたことがなかったので慣れてなくグループ内で最下位だったのですがとても楽しく活動することができました。予定が詰まっていた一日中忙しかったのですが、学ぶことも楽しく活動することもどちらも経験することもどちらも学べたので良かったです。

第7日目 8月10日(水)

今日は、ドレスデンに着いて3日目の朝を迎えました。チェックアウトの前の部屋の確認でミハエルさんに整えたシーツの様子を褒めていただきました。(ついでに畳んだシーツと記念写真を撮りました。)日本の良い面を見せられたかなと思います。

その後はバスでバスタイ橋があるラーテンに行き、みんなで山頂まで登りました。途中、バスの高さより低い看板がある所を通ったのは驚きでした。日本だったら細やかなプランの元、絶対安全な道を通るけど、前にも運転してくれた方を選ぶというのは、全く知らない運送会社の人よりいいなと感じました。ラーテンでは、ひたすら階段と坂を登りました。歩くスピードがとても速く、小出さんの体力とドイツ人の足の長さに驚かされました。かなり高いところまで来ると高所恐怖症の人達が怖がりましたが、到真先輩や優衣ちゃん、陽奈さんの素晴らしい努力により、日本人グループは全員が山頂まで登れました。お昼はバスで上まで持ってきてもらって食べましたが、伝達が上手くいかず、私と数名の日本人はお昼が持ってきて貰えなかったので人種の差なく伝達が上手くいくよう、次回の交流に活かしたいと思いました。下りの道では、すごく狭くて岩肌が近い所がありました。少し湿っていて、日本だったらジメジメするだろうに、ドイツではすごく涼しくてとても素敵な場所でした。

ホストファミリーの家に帰ってからサブリーナとニコのブギウギダンスのコーチと一緒に

に庭で夕飯を食べました。先生との仲が良いというのは素敵な関係だなと思います。その後は 3 人でトランプをしました。ドイツは、カードゲーム発祥の地なだけあって彼らはすごくカードゲームが好きなようです。七五三、一休さん、ババ抜きを教えると、すごく気に入ってくれてドレスデンに行っている間も、たくさんの青少年たちと一緒に遊びました。ゲームの説明がかなり難しかったですが、すごく楽しい時間になったので、教えた甲斐があったなと思います。ドイツのドゥーラック(Durack)というゲームも教えてもらいました。英語の説明を聞いて理解するのもとても大変でしたが、優しくて面白いドイツの青少年たちのおかげで完璧に理解したので、日本でみんなに教えようと思います。

ドイツ交流はあと 1 週間で切りましたが、残りもコロナと怪我に気をつけながら、全力で楽しみたいと思います。

第 8 日目 8 月 11 日(木)

私達の今日のスケジュールは、市長表敬訪問、サッカースタジアムの見学、青少年センターでのレクリエーションの大きく 3 つのを行いました。

1 つ目のニュルンベルク市長表敬訪問では市長代理の Max Müller さんからお話を頂き今回の交流のお金を市で負担して頂いていることやこの交流の大切さのお話を伺った後に Max Müller さんが持って来てくれたロンドンと北京オリンピックホッケーの金メダルを触る機会がありました。ドイツに来てからオリンピックとパラリンピックのメダルに触る機会が 3 度もありとても貴重な経験ができたと思います。また、市長の表敬訪問の際に食事をしながら市長代理と席を共にすることができ、日本は食事をしながらや、みんなが立って食事をして話をするといい日本ではとても考えることができ、日本とドイツの文化の違いを改めて実感することができました。

2 つ目に Max-Morlokt(マックス・モアロックサッカースタジアム)と言う、明日サッカーの試合があるブンデスリーグのサッカーチームホームスタジアムを見学することが出来ました。ここでは自然の芝とは思えないほど綺麗に整っており、スタジアムのベンチや VIP 席、警備室など普通では到底入ることの出来ない場所まで入ることができとても貴重な経験だと思います。特に VIP 席の中にもレベルがあり最上級と思われる場所では会社や個人が場所を 1 年買うことができ、その金額が莫大でありまたコロナ後の今では金額は計り知れないものと言うことでした。

3 つ目は青年センターでのレクリエーションです。自分が想像していた青年センターとはほど遠くいくつものスポーツが体験できる場所でした。そこでは宿泊施設ではなくバスケ(ハーフコート)やサッカー(ミニサイズ)、ダーツやビリヤード、クライミング、バレーなど多くのスポーツ活動ができる素晴らしい場所でした。私はそこでサッカー、バレー、ドッチボールを主にしました。どのスポーツでも全力で活動する姿がとてもか

っこよくスポーツマンシップを守っていました。特にサッカーでは、パス回しなどを多く取り入れておりチームとして皆で協力していこうとする姿を見ることができ素晴らしいと思いました。

私は、ホストファミリーとも打ち解けることができ兄弟4人でトランプを行ったり、お互いの言語を教えたり、お互いの体調の確認をしあったりとお互いが打ち解け合うことができ親睦を深めることができていると実感しています。1日1日がとても短くドイツに滞在できる残りの日数が短くなってきていることを悲しく思い始めました。これからの活動も後悔がないようにこれからも沢山の経験をしていきたいと思います

第9日目 8月12日(金)

今日はニュルンベルク市のシティラリー、食事買い物、資料館の見学、それが終わったあとは買い物やボートに乗って楽しみました。

ニュルンベルクのカイザーブルクへ向かう坂道を登りながらお話を聞いたニュルンベルクのシティラリーでは、ニュルンベルクの歴史を学びました。

ニュルンベルクはもう戦争の時代じゃないことを理由に建築し直そうとしたけど200年前はお金がなかった。そのお陰で、古くて素敵な建物が残っているのは嬉しいことです。川があるのに狭くて船が動かせないコストが10倍かかっている、広場の建物に人々が建設をしている絵を一等地に書き、この苦勞を忘れないようにしようとしたのはとても感動しました。

正門には神聖ローマ帝国の紋章。自分の心臓を子供にあげている紋章は、ニュルンベルク市民は皆さんの為に頑張る、働くと言うのを表しています。

ニュルンベルクは誰の支配も受けない町です。市民が自分たちで国を治めているという考え方はとても素敵でした。アルベルトデューラーが書いたうさぎの絵を見た時の昔の人の反応のように、私も銅像を見た時のショックは忘れられません。

お昼はシルヴィア、カホ、アントニア、ダニエルとシュタイフのお店に行ってぬいぐるみを買った後にマーケットに並んでいる屋台でご飯を食べました。私は、前の日に食べたニュルンベルク焼きソーセージがとてもおいしかったので、この日も食べました。その後、時間ギリギリになっても頑張ってお金を稼ぐためにアイスを食べに行ったのは良い思い出です。ドイツに来てから毎日アイスクリーム食べています

ツェッペリン広場、黄金の広間と呼ばれるここはとても綺麗で涼しい空間でした。ハーケンクロイツのモザイク。本来ならば謁見の間と呼ばれています。巨大なドアが3つ。自動車でそのまま中に入れるようになっていて、壁は特殊な技術で研磨すると灰色になります。元々は寺院のようにしたかったそうですが、外の広間はすごく暑かったからVIPはここに来ておもてなしする場所にしようとしたのですが、これも予定のまま未完成の建物が残りました。780万ユーロの予算をかければまた修復でき、ニュルンベルクにとってこの建物が大事だそうです。1909年にツェッペリン飛行船が着陸し

たことからツェッペリン広場って言われています。

全体プログラムが終わって解散した後、みんなでボートに乗って遊びました。私とカホちゃんが頑張ってるのに後ろのシルヴィアとアントニアが「おやすみ〜」って言って寝てしまってとても面白かったです。カホちゃんと私はぶんぶんしていました。

私は、シルヴィアにサングラスを買いたいと言ったら 3 軒連れて行ってきて、私が欲しかったブランドのサングラスを手に入れる事が出来ましたでも高かった…とても楽しい一日になりました。

第 10 日目 8 月 13 日(土)

今日は、スポーツバジテストと水球、ビーチバレーを行いました。スポーツバジテストの内容は 100m 走、800m 走、3000m 走、水泳 25m を泳ぎました。100m 走や 800m、3000m を走る前にウォーミングアップとしてトラック 1 周しました。100m はトラックの 4 分の 1 の直線を使って行いました。この時に花穂先輩が顔からダイブしてしまって顎や膝を怪我していました。いざ本番、走ってみるとみんな怪我をしそうと言っていたのでウォーミングアップをもう少し入念に準備体操をしてトラックを走ってから本番を行いたかったです。800m はトラックを 2 周しました。この種目は 17 歳以下が行う種目で私やアレックス、ゆい、ちはる、ブルーノが走りまします。アレックスはスタートからとばして後半、ゴールするまでペースが落ちることがなくとても速かったです。ちはるやゆいは普段スポ少で走っている時より速いペースで走れている気がしました。私も自分の出せる精一杯の速さで走ることができ、自己ベストを更新することができたので良かったです。3000m は、トラックを 7 週半も走らなければいけません。花穂先輩は前十字を怪我しているため小出さんに止められても走ると言って走りきったのがとてもすごいと思いました。その走っている花穂先輩をとうま先輩とこう先輩がサポートしながら走っていてすごいと思いました。

私は、プールがとても楽しみでした。プールは本当に 2m の深さがあり入るまで足はつくだろうと思っていたけどいざ入ってみると想像の 3 倍は深く、初めて入った時は足が本当につかなくて溺れてしまうかもしれないと思いました。でも、この足がつかない感覚に慣れてくると足がつかないことが面白く感じるようになりました。初めは、足がつかないことで焦って体に力が入ってしまいどんどん沈んで行ったけど、慣れてきたら力を抜いてリラックスして体が浮くまで待ってから泳げるということに気づきました。私は水球をやった後に 25m を泳いだので 10m 泳いだ頃に体が重くなって動けなくなりそうになりました。でも無事に泳ぎ切る事が出来てとても良かったです。

ビーチバレーはサラサラの砂の上で行う競技で、1 チーム 5 人でやるので普通のバレーボールとは少し違いました。5 人でローテーションしながらやるのでボールに触れる回数が多かったです。下が床ではなく砂なので遠くに飛んで言ってしまったボールや味方のカバーに行くのが遅れてしまいボールを落として点を取られることが多かった

です。水球は、本来 2m の深いプールでやるのですが私たちはまだ立ち泳ぎができないなど不慣れだったので 1.30m の浅いプールで行いました。それでも、ボールは片手で扱わなければならなかったため水中と片手という条件が重なってボールのコントロールがとても難しかったです。でも、相手のパスを防いだ時やパスが繋がってゴールに入れた時はとても嬉しかったです。今度は深いプールで水球に挑戦してみたいです。

サキさんは、ホストファミリーのサブリーナさん兄妹がブギウギダンス世界選手権に出場したのでシュツガルトまで応援に行き別行動でした。

第 11 日目 8 月 14 日(日)・第 12 日目 8 月 15 日(月)

朝起きて、鏡を見ると、なぜか自分に自信があるように見えるドイツの朝ですが、それは自分の魅力が増したのではなく、周りによって上げられた自己肯定感が影響しているのだと私は思います。もちろんここへ来て、約 2 週間生活しているので、ドイツで生活できている自分を褒めてあげたいですが、それよりも周囲の人の目線が優しいおかげだと思っています。優しいというよりも、自分は自分で人は人。合わせることを嫌い、自己主張をしっかりとするドイツ人だからこそ、日本では着ないような洋服を私は、ドイツでは自信を持って着ることが出来ます。私は、今とても生きやすい環境にいます。日本はドイツに比べて生きづらいです。とても居心地が悪いです。人を真似て、人についていく、それが正しいとされている、そして、その文化にいつも従ってしまう自分が嫌になります。他にもドイツは環境配慮に気をつけているのを実際に来てみてわかりました。日本では当たり前のように各部屋にティッシュボックスがあるのに対し、私のお家にはありませんでした。食事の際も紙ナプキン一枚でした。また、瓶のジュースが沢山あり、空のペットボトルをきちんと持ち帰り、リサイクルする。とても素晴らしい環境配慮だと思いました。一方で悪い点も見つけました。こんなにも綺麗な街なのにタバコが沢山落ちていたことです。タバコのパッケージが日本に比べ、恐く作られているのに、街中で歩きながらタバコを吸う人が多く見られたので、とても残念でした。

私は、ここへ来てとても優雅な暮らしをしています。アントニアのおうちが特に優雅なのかもしれませんが、ドイツの 1 日はとても充実していると思います。朝早くだとお店は空いてないし、遅くだとまた空いていない。つまりプログラムに参加しているとショッピングができない。これは日本の労働時間とは真逆です。私はドイツで働きたいと思いました。ニュルンベルクのサッカーチームのスポーツドクターになりたいです。今日は最後のショッピングの時間が取れたので、写真であらかじめ作っておいた買い物リストを見せて買い物を楽しみました。全く準備をせず、全てホストファミリーに聞いてそこで一緒に考えて行動するのも良いと思いますが、私は完璧に事前準備を済ませ、行きたいところ、買いたいところ、したいことを全て伝えました。その結果、それを実現することができました。私はもうドイツに後悔はありません。ただ帰りたくないだけです。やるべきことはやりました。ウクライナを含め 3 カ国交流は国境の壁を感じさ

せないくらいとても楽しめました。次はビールが飲める年齢になってからまた帰ってきます。そして今回のメンバーと再会して一緒にビールを飲みたいです。午後のボーリングでは教え合う姿が見られたので、とても良い時間になったと思いました。ボーリングの後は公園でトランプをしました。ドイツと日本のルールが違う部分もありましたが、その点について話し合うことも出来ました。また、トランプをしている間は国籍関係なく全員で楽しむことができたのでよかったです。夕食は最後と考えると寂しかったですが、家族みんなが出来たのでよかったです。

第 13 日目 8 月 16 日(火)

誰も欠けることなく今日と言う日が迎えられて、私は嬉しくもあり悲しくもあります。私はドイツに行きたいと思って数年が過ぎてその夢が叶いました。

始めは、言語や文化が異なる中で家族やドイツメンバーと打ち解けられるか不安でたまりませんでした。しかし日に日に皆さんと親しくなり、ドイツで過ごした思い出を振り返ると家族や友達との別れが名残惜しいです。

ここドイツでは歴史や文化人の親切心などたくさんのお話を学ぶことが出来ました。別れは寂しいものですが、私たちの別れは一生のものではありません。この縁を大切に今後交流を継続して後悔がないように過ごしたいです。

ドイツのメンバーは、ぜひ来年は日本に来て欲しいです。その時は、私たちが日本の魅力について教えたいと思います。また会いましょう。



派遣團員・指導者感想文



【瀧澤千晴】

旅行で一番楽しいタイミングは旅行の計画を立てている時、というアンケート結果がありますが、私の今回のドイツ派遣は 3 回の事前研修よりも準備の買い物よりも何よりもドイツで過ごした 2 週間が一番楽しかったです。

私は、普段からおっちょこちょいでいろいろやらかしているタイプの間人ですが、ドイツ派遣の新町駅集合の時点で、スマホと飛行機のチケットを忘れました。チケットは小出さんのおかげで事なきを得ましたが、親任せにしてしまったのでこの反省を今後の生活に生かさなければなりません。

8 月 4 日の出発時は 35 度越えの蒸し暑さで、ホームで電車を待つ間も汗がだらだらでした。ドイツの気候は西岸海洋性気候で夏の気温は上がっても湿度は低いと社会で勉強したので、この蒸し暑さとももう少しでおサラバ…とドイツの気候に期待していました。高崎線とモノレールで羽田空港へ。羽田空港では夕飯につけ麺を食べました。私のいとは 4 月から羽田空港の会社で働いているので、いとは一人暮らしをしながらこんな大きな、店がいっぱいのところで働いているのかと改めて尊敬しました。羽田空港からターキッシュエアラインズでイスタンブールへ。人生初海外なのでパスポートを見せるのも、外国人の客室乗務員と接するのも緊張しました。緊張もありましたが、多分興奮していたのだと思います。飛行機の中では全く眠れませんでした。みんなが寝ている中映画を見るのも気が引けて、機内では、ボウーとしていました。浅い睡眠の後、イスタンブールに無事到着。イスタンブール空港から見る夜景は東京のようにごちゃごちゃしておらず、すっきりとした美しさがありました。

無事に乗り換えもでき、期待のドイツ、ニュルンベルク空港へ。8 月 5 日の午前 10 時頃に到着すると、ホームステイ先の家族らが空港まで迎えに来てくれていました。歓迎式があり、わざわざ空港まで来てくれたことが本当にうれしかったです。ホームステイ先の青少年であるソフィーとはインスタグラムの DM でやりとりをしていたので、実際にソフィーの顔を見たときには憧れの芸能人に会ったかのような感動がありました。ソフィーとそのお母さんと私は、ソフィーの家まで電車で移動し、初ドイツの家庭料理をいただきました。ドイツの主食はパンですが、日本の白くてフワフワな食パンと違い、全粒粉を使っているのか少し黒っぽく、固めの食感の小麦の風味を強く感じるパンでした。ここでドイツの食事について触れておくと、ドイツの家庭料理は日本のように主食、主菜にバリエーションがなく、基本パンとスプレッド類のみというシンプルなものでした。野菜類は加熱などの手を加えず、パプリカやトマトなどを生で食べることが多かったです。日本では生野菜サラダも食べますが、煮物や焼き物などさまざまな調理法が日本の家庭料理には取り入れられていることに気づき、日本の主婦の料理技能の高さは自慢できると思いました。でも、私はチャーハンくらいしか作れません。

夕方にウェルカムパーティーがあり、日独の青少年が集合し、ゲームを通してお互いに知り合いになれました。私はここでドイツ語の「右」「左」を覚えられてうれし

たです。ホームステイ先での初めての夜で眠れないかも…と心配性の私は不安でしたが、疲れもあってぐっすり寝ることができました。私の心配性なんてそんなものです。

2日目はスポーツバッチテストがありました。ドイツの青少年たちは良い記録を出すために、何度も挑戦していてすごいなと思いました。ソフィーもたくさん練習を重ねていてとても尊敬します。私は、縄跳びをがんばりました。縄跳びでゴールドがとれてうれしかったです。日本の小学校では、なぜか冬に縄跳びに取り組むことが多いので、ドイツ人より上手に跳ぶことができるのだと思いました。スポーツ後は、みんなでピザをいただきました。スポーツ後のピザは胃がやられるか？と思いましたがそれも乗り越し苦労、案外食べられました。砂のしおりづくりもしました。スポーツだけでなく、このようなクラフト体験活動も楽しくていいなと思いました。夜はクラシックコンサートに行きました。正直、クラシックは詳しくないので何が演奏されているのかはわからなかったです。フェスのような会場でたくさんの人が集まっていて、コロナ禍とは思えない光景でした。

3日目はホストファミリーデーで、ニュルンベルク動物園に行きました。日本の動物園と比較してとても広く、見たことのない動物がたくさんいて、動物苦手人間の私にもとても楽しめました。トロピカルという展示場所ではサルや魚、鳥がいて放し飼いにされていました。動物園と水族館が合体したような展示も面白いと思いました。

4日目はドレスデンへ行きました。メードラロイト記念館を見学し、東西分割の歴史を学ぶことが出来ました。東西の壁は越えられないように高くなっているとともに、白く塗って上を丸くすることで越えようとする人を目立たせ、手をかけにくくする工夫がなされていたそうです。家族や親類で東西にわかれてしまった人もいたことを思うと、なんて厳しい歴史があったのだろうと、お気楽な旅行気分が吹き飛びました。

5日目は聖母教会へ行きました。私はそもそも教会に行ったことがなく、キリスト教の教会が持つ荘厳さに感動しました。聖母教会では牧師さんのお話を聞いて、普段は見られない地下室も見せていただき、戦争についてお話を聞いてきました。日本で折ってきた千羽鶴をおさめてきました。午後はフォルクスワーゲンの工場見学に行きました。私は小学校でスバルの工場見学に行ったことがあったので、ガラス張りの清潔な工場ですっきりと丁寧に作られていく様子に、さすが高級車の工場は違う…と思いました。グッズ売り場があり、つい帽子を買ってしまいました。

6日目はハイキングに行きました。頂上から見る景色は絶景でした。

7日目はニュルンベルク市庁舎へ行き、市長代理でホッケーの金メダリストでもあるミュラーさんに会いました。私が挨拶をする予定でしたが、時間がなかったのでプレゼントだけ渡しました。その後、パストリウスという青少年の家に行き、バーベキューをしたり、板に焼き目で絵をつけるクラフトをしたり、サッカーを山形から参加したりんちゃんに教えてもらいました。

8日目はナチス資料館を見学しました。ナチスが造ろうとした巨大な建物に、当時の

ナチスのもつ力や人々への影響力の強さを感じました。ドイツの負の遺産ともいえる建物ですが、破壊せずに保存することで後世の人々に生の歴史を教えてくれています。今、ウクライナとロシアで戦争していますが、戦争がいかに愚かなことか、今後も私は勉強していかなければならないと思いました。

9日目は水泳でした。1年ぶりの水泳でしたが、思ったより泳げて安心しました。ドイツのプールの水深は1.8mもあり、飛び込んだ時は体がすっぽり水中に入ってしまった焦りました。途中体調が悪くなってしまったので悔しかったです。水泳で記録がとれていればバッチテストの結果もよかったと思うので本当に残念でした。

10日目はさよならパーティーでした。砂でクラフトを作ったり、ドイツのお世話になったお母さんたちにプレゼントを渡したりしました。あまり練習しなかったソーラン節は、はるひ君が前で踊ってくれたので、それを見ながらなんとか踊り切りました。ドイツの青少年とマカレナダンスをしたのが良かったです。日本の親にマカレナの報告をしたら、日本でも十数年前に流行ったよと言われました。マカレナダンスはワールドワイドな踊りだということがわかりました。

11日目は日独の青少年でボーリングに行き、その後お土産として服やお菓子、お土産を買いました。ソフィーと一緒に買い物をするのは日本の友達としているのと同じくらい良かったです。

12日目は評価会議がありました。マックスさんが意見を出しやすい評価方法にしてくれたので、意見を述べやすかったです。良かったことは、ドイツ側の配慮で特別な経験がたくさんできたこと、どのプログラムも楽しめたこと、スポーツだけでなくBBQのようなみんなで楽しむ食事やクラフト製作などもあったことです。反省点としてはプログラムが密すぎて大変だったこと、ホームステイ先の家族と過ごす時間が少なかったこと、ドイツの青少年の指示を私たちが理解できなかったことが挙げられました。

ニュルンベルク空港までソフィーを始めドイツの人たちが見送りに来てくれました。来年、日本に来た時には絶対にまた会おうと約束しました。今から来年が楽しみです。今回のドイツ派遣では、自分が体調を崩したときにホストファミリーがやさしくしてくれたこと、人見知りの自分に新しい友達ができたと、英語でコミュニケーションをとることができたこと、が嬉しく心に残りました。また、ドイツ人がバッチテストにいつでも本気で挑んでいること、自国の歴史をしっかりと勉強して知っていることが私にとって勉強になりました。自分もドイツ人のそういう姿勢を見習っていきます。

【中尾優衣】

私は、このニュルンベルグ青少年国際交流派遣事業を通して、人に慣れない環境の中で生活することの難しさを感じるとともに、そんな中だからこそ苦手なことでも自主的に動く積極性と最後までやり切る忍耐強さを得ることができた。

例えば、積極性を身につけられたと感じたのは、スポーツ活動を行ったときだ。私は、

スポーツが得意ではなく、競技によっては苦手意識をもっていたものもあった。しかし、この青少年交流では幅跳びや陸上競技などで行うスポーツバッジテストを含む様々な運動にチャレンジした。3年間まともに泳いでいなかったことで本当に溺れ死ぬかもしれないと恐怖感で一杯だったが、挑戦し25メートル泳ぎ切ることができた。苦手なことだと最初から消極的になってしまう私にとっては最終的に自分の意思でやると決めたこの経験は大きな一歩だった。私は、競泳にチャレンジしたことも相まってスポーツバッジテストではブロンズメダルをもらうことができた。でも、私はバッジを獲得したこと以上にどんなでも挑戦したことで良い結果を残せるということを実感して学ぶことができ、それが自分にとっての自信となったことが嬉しかった。さらに、スポーツ活動を通じてだけでなく、ホームステイ先でもホストファミリーに自分から話しかけてみたりした。言葉が上手く伝わらない中でのコミュニケーションは辛いこともあったが、それによってホストマザーとホストファザーとの仲を深めることができたと思う。また、受け身でいるよりも自主的に話すことが楽しいとホストファミリーとの生活の中で思えるようになった。このスポーツ面と生活面の主に2つのことから身につけた積極的に行動することは、学校での活動でも大切だと思う。だから、この交流で身につけたことが無駄にならないよう学校でも積極性を意識して行動していきたい。

忍耐強さは、プログラム全体を通して学ぶことができた。私は初めての海外で、心配なことも多々あり、不安に押しつぶされそうだった。また、私は新町の中では唯一異性同士のペアだった。私は異性とあまり話したことがなかったこともあり、パートナーと気安く話すことが難しかった。話しかけたとしても彼自身、人見知りで会話が続くことは少なかった。当初はお兄さんがパートナーの予定だったが扁桃炎になってしまい急遽弟さんがパートナーになったというトラブルも大きな原因だろう。端的に言うと、彼と私は意見のすれ違いなどが起こり良い関係は作れなかったように思う。でもそれは、相性が少し悪かっただけなのだと思う。相性での問題が起きるのは仕方がないことだ。今となっては、最初にぎこちなかったホストファミリーのパートナーとも若干の苦手意識と慣れない場所への不安感の両方があっても最後まで頑張り続けることを身につけることができたのだと思い、彼には深く感謝している。この先、学校や社会に出た時相性が合わないと感じる人はたくさんいるでしょう。私は将来自営業ではなく、税理関係の一般会社に勤めたいと思っているので、もしかしたらそういう人が上司や顧客にいて、仲良くする必要がでてくるかもしれない。そんな時、この交流会で身につけた忍耐強さと相性が少し悪かった人と二週間もの間一緒に暮らした経験は必ず役に立つと思う。積極性、忍耐強さこの2つのどちらも今後活かしていけるものだと思うので、せっかく得られたものを失わないよう努力し続けたい。

私が出たものは人間性に関わるものだけではない。勉学に対する知識についても多くのことを学ぶことができた。ドイツ語、英語など言語に関しては勿論だが、1番は平和についてだ。ドイツの歴史深い建物を通して過去に起こった戦争やそれが原因で起こっ

たドイツの東西分裂について学ぶことができた。中でも教会は、平和について学び、深く考えるきっかけとなった。例えばホストファミリーデーにローテンブルクに行った際、農民戦争に深く関わった聖ヤコブ教会を訪れました。日本では教会を目にしたことがあまりなかったからこそ、その壮大さに圧倒され、こんなにも綺麗な建物でも戦争に関わっていることへ衝撃や悲しみなど複雑な気持ちになったことを鮮明に覚えている。また、9日に聖母教会を訪れたことも印象に残っている。戦争によって一度は瓦礫にまでなったはずなのにとても立派で、インターネットなどなかった当時に再建協力を呼びかけた人々、およびその呼びかけに応じた10万人以上の人々の想いを実感し感銘を受けた。その後の神父さんとシュナイダーさんのお話も学校では教わらないことを勉強することができ有意義な時間を過ごすことができた。他にも、12日に訪れたナチス資料館では4つの時代に分かれてそれぞれの時代のドイツの人々の苦しみを感じ胸が締め付けられた。聖母教会や事前研修の際問われた「今自分は平和に過ごせているか」という問いに対して少しでも多くの方が平和だと答えられるような世の中になってほしいと思った。私はそのためにも何をすればいいか今は正直わからない。ただ、大人になった時答えを導き出せるよう今は今回学んだことをより深く考えられるようにしたい。

得られたもの、学んだことを振り返ったとき、1番身をもって学んだことがあることに気がついた。それは、人の暖かさだ。私を受け入れてくれたホストファミリー、私のために必要なことを準備し笑顔で見送ってくれた家族、歓迎式やさよならパーティーなど様々なことを準備して下さった指導者の方々、辛いとき励ましてくれた明るくて優しい仲間などあげたらきりが無いほどの人に支えられて2週間無事に過ごすことができた。特に私が夜に寂しくて泣いてしまったとき、抱きしめてくれたホストマザーの暖かさは一生忘れることがないだろう。

この今回の交流で私が感じたような暖かさをお互いに感じ合い繋げていくことができれば今後もこの国際交流を継続することができると思う。私はそのために思いやりを大切にしていきたい。そんな曖昧なものよりも言語など分かりやすく役に立つものを大切にしたい方が思われることなのかもしれない。だが、私は言葉が通じなくてももっとドイツの方々和交流したいと思うことができた。それは、この交流が相手を思いやる心に満ち溢れているからだとは私は考える。オンライン間での交流だろうと相手のことを気遣い思いやり、来年の受け入れでは今回私が経験し感じたことをもとに相手の子を思いやり支えたい。それによって、この国際交流が今後も長く続くことを私は祈っている。

【春山紗希】

私はこのドイツ研修で多くのことを学び、たくさん大切なものができました。帰ってきた今、あの2週間は夢だったのではないかと、思うほど素敵な日々で、たくさん思い出の品を見る度に、現実の貴重な体験であったと実感して感動しています。

私はこの研修が、初めての海外渡航でした。私は、このプログラムが決まってから実

際現地に着くまで、不安しかありませんでした。私は学校内の英語のテストの成績はあまり良くなく、英語は不得意です。そのため、2週間もドイツメンバーと楽しめるのか、ホストファミリーと家でコミュニケーションを取れるだろうか、とぐるぐると悩みました。実際、ニュルンベルク空港の入国審査では英語コミュニケーションで少し苦労しましたが、ホストファミリーが笑顔で「サキー！」と呼んでくれているのを見た途端、今までの不安はどこかへ吹き飛んだように感じなくなりました。

そのまま家へ1度帰り、家の近くをニコとサブリーナと一緒に散歩しました。2人が通っている学校や近くの公園に行き、ドイツでの生活や学校について、日本の学校やアニメについて、飛行機に乗っている間のことなどを話しました。ドイツへ着いて初めて食べたものは、家の近くのお店のアイスです。甘い匂いに誘われて蜂のような模様をしたハエが沢山寄ってきました。この2週間毎日感じましたが、ドイツはとてもハエが多いことを知りました。ハエが絡んだ何気ない日常も大切に微笑ましい思い出です。

2日目のアルトドルフのスポーツクラブ施設では、スポーツバッチテストを行いました。縄跳びの練習をしている時、サブリーナと一緒に2人飛びをしたのですが、お互いの膝をぶつけて、まるで本当の姉妹のように大笑いしました。その日の夜には、野外のクラシックコンサートがあり、お父さんが私にそのクラシックコンサートのピンバッチを買ってくれました。「思い出にしてね」と言ってバッチを渡してくれて、胸がジーンとしたのを今でもよく覚えています。

4日目のドレスデン行きのバスの中で、ドイツメンバーと一緒に日本のアニメの曲と一緒に沢山歌いました。彼らは私たちが知らないアニメをたくさん知っていて、驚きでした。また、「アニメでこんな言葉を言っていたから、〇〇って言えるよ」と、よくドヤ顔で話してくれて、彼らの好奇心と好きなものに対する学習態度がよく分かるように微笑ましかったです。同日、メードラロイトの記念館でドイツ分断の歴史を学びました。学校の授業で、ドイツが分断されていたことや壁崩壊時のことなどはもちろん知っています。しかし、詳しい占領国や、当時の暮らしの状況などは知りませんでした。命の危機を感じながら、また壁の向こうの大切な人と会えない寂しさを感じながら暮らしていた当時の人たちの様子を知ることが出来ました。私もドイツについてもっと知りたいと、強く思った日でした。

5日目は聖母教会に行きました。空襲で崩れた昔の聖母教会の一部を見ながら、みんなが平和について考えました。ただの観光ならそんなことを考える機会は無いですし、ドイツの人と意見を交換することはないと思うので、滅多にない貴重な経験をすることが出来たと思います。ただ、私たちは事前研修でもっと深く考えたので、意見交換の時間がもう少しあっても良かったなと思います。

午後には、ドレスデン ツィンガー宮殿前で少人数グループの写真を撮りました。ジャンプをしたり、組体操をしたりしながら写真を撮って、日本よりも青春を楽しむことが出来ました。

10日目にはサブリーナとニコのブギウギダンスの世界大会に行きました。2人の所属するチームの他のペアとも仲良くなることが出来ました。素晴らしい会場で、全力でドイツチームを応援しました。楽しそうにダンスをするたくさんのペアを見て、こちらまで楽しくなれる場でした。世界各国の優秀なペアが、ダンスについて語る姿や、闘った相手と握手やハグをしている姿は、スポーツマンシップそのもので、素晴らしい世界に連れてきて貰えたのだと実感しました。ニコ、サブリーナペアの本番前の練習の様子などから、2人の努力がよく分かりました。素晴らしい家族と出会えたと思います。

最後の日、久しく泣いていなかった私はサブリーナと一緒に泣いてしまいました。私が荷物のチェックインで手間取った時、お父さんがすぐに駆け寄ってきて助けてくれました。最後に本当にこの家族の一員になれて良かったと思いました。私たちは今でも連絡を取りあっています。この夏に得た私の新しい家族との関係を、これからも大切に守っていきたいと思います。

【小手川温陽】

今回の日本での交流で生かせることとして、お互いのメンバーはお客様として参加するのではなく、国を代表として交流しているのであり細かな日程表や持ち物などを常に確認できるようにするべきであると考えます。今回の交流で何度か持ち物の伝達ミスや各国の常識の違いなどが有り無駄な時間がかかってしまったと考えられます。

また、今回の交流で平和について考える時間がありました。しかし、時間的に短く限られた人しか話せない状況でせっかく文化や常識が異なる人々との対話が物足りなく感じました。今回の交流では、しっかり話し合える時間を整え、事前アンケートに答えてもらい、交流でさらに意見を深め合うべきだと考えています。私は、お互いの歴史を学ぶことはとても大切だと思いますが、それ以上にこの交流では、日本とドイツとの関わりや、お互いの常識文化の違いを理解し合う方が大切だと考えます。2週間相手の国で過ごすことができれば生活上の違いは理解することができますが、学校制度やスポーツの立ち位置など2週間ではあまり理解できない特徴的なことを学ぶ機会があっても良いのではないかと考えます。この交流で欠かせない人は通訳さんであり、また通訳さんにかかる負担も大きいと考えます。そのため、代表挨拶や決まったことを言う場合には、その内容を伝えておくことによりスムーズにイベントが進行し負担を減らすことができると考えます。(小出指導者は、全て事前に通訳さんへ原稿を渡していた。)

今回の交流では、スポーツバッジテストとして自分自身の記録を出すことがメインでした。しかし、もっと日本対ドイツやミックsteamなどで試合をすることにより、より早くお互いが打ち解けあうことができるのではないかと感じました。以上のことが、今回の交流で活かされると考えられる点です。上記のことは、新町としても前回の交流でできているとは言えません。時間的、財源的制約に大きく左右されることは十分理解していますが、次回に生かすという観点で記しました。

私は、ドイツに行きたいと思い始めてから数年が過ぎ、多くの人の協力と莫大なお金の上で交流することができて本当に良かったと思います。日本とドイツの違いとして、電柱や信号機が少なく外観に気を遣っていること、キックボードや自転車などを安価で誰でも使うことができた。また、道路にはキックボードや自転車専用道があり、歩行者や自動車とは分かれて走行できるため使用者にはとても素晴らしい配慮がしてありました。ドイツの青少年たちと会話をすると自国愛がとても感じられ、国旗が印刷された服や大統領、自国の車などを楽しそうに話しており心から自分の国が好きであるを理解できました。日本とは違い森林や山などの自然と触れ合える場所がたくさん有り、自然を大切にしていることが理解できました。また、実際に交流してとても思い出に残っていることが3つあります。

1つ目はドイツ人の人間性です。私は、この二週間、見知らぬ人に3回話かけられました。日本で見知らぬ人に話しかけるなどまずありえないがそれが当たり前になります。また、それに対応する人も不機嫌な様子ではなく、ドイツ人はとてもフレンドリーで、誰にでも話かけることができる環境であると感じました。また、車いすの人を助けたり、困っている人を助けたりと当たり前のことを私が気づく前に当たり前のように行い、とても優しくフレンドリーな人間性を持っていると実感しました。

2つ目は街の様子についてです。中心街や住宅地でも自然がとても豊かで森や木々が身近に存在することや人々が体を動かす施設が多く、電柱もほぼなく町の景観を守っていることです。日本の道路にも木は植えられていますが、比較にならないくらい木が多く自然と一体化しているような様子であり心地良かったです。また、その自然の景色や歴史的建造物を守るために統一された色彩などで景色すべてが綺麗でした。

3つ目にウクライナの子との交流です。自分のホームステイ先の家族にはウクライナの青少年がいて、他の人よりも多く接する機会がありました。特にウクライナから避難してきた青少年たちが生活している施設を何度も訪れる機会もありました。一緒に山登りする機会がありました。その施設は子どもたちだけで生活しており、ホワイトポートには英語や何かを勉強している様子があり、実際に近くで戦争が起きていると改めて実感しました。また、今回一緒に交流した青少年に将来の夢を聞く機会があり質問してみると、はじめは悲しそうな顔をしたまま「ウクライナの大学に行きたいと」と話してくれて、だんだんその魅力について楽しそうに長時間語ってくれました。早く故郷に帰りたい、戦争が早く終わって平和になってほしいという気持ちが言語を通さなくても伝わってきました。

今回の交流で学んだことは、伝えたい気持ちやスポーツを通すことによって言語がたとえ伝わらなくても意思疎通ができるとうわかりました。自分は英語が苦手でも会話ができるか不安でいっぱいのも気持ちで挑んだ交流で何度も話が噛み合わないことがありましたが笑顔でいることによって場の雰囲気も崩れず、スポーツをすることによって一つの目標に向かって活動し意気投合することができました。また、ドイツと比べ日本は自国

愛が少なく、スポーツの関心が低く一人の壁みたいなものがあると再確認しました。

今回の交流の全体を通して、日本とドイツでは文化や生活様式などが根本的に異なり国の様子を比べても日本と比べてたくさんの国々の人に出会うことができることや大きな教会など日本にはまず経験することができないようなことを体験できました。そして、実際にウクライナから避難してきた青少年との交流は、今後の私の人生にとって大きな価値があるものだと思います。また、ドイツへ行きたい、あのメンバーに会いたいをとて強い気持ちを抱いています。

このような素晴らしい経験をする事ができて本当に良かったと思いました。

【水野巧望】

私は、今回のニュルンベルク青少年国際交流でドイツに行く前は英語が上手では無い事やホームステイ先の家族と仲良く出来るかなど色々なことが気になってとても不安でした。ニュルンベルク空港に着くまでとてもドキドキしていたのを覚えています。ニュルンベルク空港に着くとコリンとお母さんが、笑顔で私を迎えてくれたのがとても嬉しかったです。私はその時、長時間のフライトでとても疲れていたのと緊張して上手く話すことが出来なくて少し黙っている時間が続いてしまいコリンに Are you angle? と聞かれたのがとても印象に残っています。お昼に何が食べたいと聞かれ私はホットドッグが食べたいと即答しました。そうすると家に着くとホットドッグを作ってくれて食べさせてくれました。この時、私は自分の思ったことはしっかりと伝えれば伝わったので、自分の意見はしっかりと伝えることの大切さを改めて理解しました。そしてコリンとお父さん、お母さんでウェルカムパーティーに行った時は疲れて眠くて意識がもうろうとしていたけど他のドイツの子達とレクや話をしていたら眠気はすぐにどこかに飛びました。

全体の活動を振り返って自分が得られたものは、1 つ目は話す言語が違ってても自分の伝えたいことを伝えなければ相手も理解してくれないということです。これを強く感じたのは初日のお昼ご飯の時やドレスデンで聖母教会に行って戦争について日独で話し合ったこと、日常生活でのコミュニケーションで感じました。

2 つ目は、1 つ目と似ていて相手が何を考えて、何を伝えたいのか真剣に考えることです。なぜなら、日本人同士であれば日本語で話しているのですぐに理解する事ができますが、言語が違い伝えたいこともなかなか伝わらないので周りの状況をよく見て相手が今、何を伝えたいのかをより真剣に考える必要があったからです。

楽しかったことは、今回のプログラムが盛りだくさんだったので全て楽しかったです。

その中でも特に印象に残っているのはホストファミリーデーの時に民族のお祭りに行って帰りに遊園地に連れてってもらってロールコースターにコリンと乗ったことと、サキさんとそのホストファミリーのニコとサブリーナ、そしてコリンの 5 人で流星群を見たことです。広い公園で夜空を見上げて流星群を見つけるのはとても楽しかったです。

とても青春を感じました。その後、コリンと家に帰る時にバスの時間が間に合わないとして歩いてバスに乗り込んだらコリンが青ざめた顔でバスを乗り間違えたと言い出して、直ぐにバスから降りて次のバスまで6分で1.5km離れたバス停まで2人一緒に全力で走りました。とても大変だったけどバスに間に合った時は2人で楽しかったねと言って笑い話になりました。この出来事はとてもいい思い出になりました。

もう1つプールがとても楽しかったです。私は、今まで足のつかないプールに入ることがなかったので入った時に足をつこうとしてつかなかったので焦って溺れそうになりました。そして、とても水が冷たかったです。それでも、とても楽しかったのでもう一度入ってみたいです。

今回、得られた相手に伝えたいことをハッキリと伝えることや相手の伝えたいことを理解することなどは将来、社会人になってからもとても大切になってくると思うので、今後も活かしていきます。

今後、この国際交流を継続するにはいつまでも指導者の方々に頼りっきりになってしまふのではなく、自分達で計画して行けるようにしたいです。小出さんも言っていたように今回のプログラムで私たちが大変だなと思ったことは、来年ドイツ側が日本に来た時に同じことをしないということを意識したいです。

ここからは、来年のプログラムについて、少しだけ今の段階で考えていることの話です。今回のプログラムはドイツ側から補助金を多く出してもらったので色々な制約の中で行われたのでスケジュールがとても忙しかったです。まずは、こうが先輩が言っていたように、今まで新町の花火大会の前日に新町から帰ってしまっていたので来年は新町の花火を是非見て欲しいので日程を少し遅らせたいです。私は、初日は長時間飛行機に乗って来てとても疲れていましたが、ウェルカムパーティーやレクはとても楽しく本当に嬉しかったのですが、疲れが取れないまま2日目、3日目と過ごしたので初日は疲れがあると思うのでホストファミリーとの時間にゆっくり休み、2日目にウェルカムパーティーをやるのが私はいいと思います。また、今回はもっと他のドイツのメンバーとも交流したかったけど自由時間があまり無かったのでたくさん交流ができませんでした。来年は、プログラムを早く終わらせて自分達の自由な時間を作る日を2、3日作れたらいいと思います。そして日本とドイツで対決するサッカーの試合ができなかったり、ハンドボールの試合が出来なかったりと、とても悲しかったので日本に来た時には日本チーム対ドイツチームで行う競技をいくつかやりたいです。具体的にはサッカー、ドッジボールなどをやってみたいです。今回最終日の評価会で、ドイツ側がドイツの歴史ミュージアムに行った時にドイツ人と日本人のグループに別れて説明を聞くのではなく自分たちで相手側に説明したいと言っていたので、日本でもそのような歴史や文化を伝える機会があったら日本人とドイツ人で分けるのではなく日本人が日本の文化を直接伝えたいです。また、ホストファミリーデーは2日入れたいです。1日目は最初の方に入れて2日目は中間に入れたいです。花火大会はさよならパーティーの日の

夜にみんなで見に行きたい。ウェルカムパーティー変更時に全員に情報が行き渡るように毎日の終わりにミーティングをする時間を確保するようにしたいです。

【笠原到真】

この 2 週間を通して日本とドイツの普段の文化の違いなど様々なことを学ぶことが出来ました。1 日目では空港で様々なトラブルがあったにも関わらず無事全員がニュルンベルクに到着出来たことが何より良かったです。ウェルカムパーティーで、もっと早く自分から話しかけていれば良かったなと思いました。

2 日目はスポーツを通して交流して、途中、千羽鶴作りで参加できなかった部分もありましたが、綺麗で立派な千羽鶴が完成して渡せたので良かったです。試合には参加できなかったことはとても残念でしたが、ドイツでハンドボールの試合を観ることができて貴重な経験でした。40 代以上の人でも自分から積極的に試合に参加していて日本では絶対見られないような光景でした。日本でも地域でこういった試合が出来たらもっと楽しく真剣なスポーツ習慣が根付くのではないかと思います。

スポーツバッジテストを通して、ドイツ人は全てに本気で納得のいく結果が出るまでやる姿勢は一緒にやっているととても楽しかったです。夜は、クラシックコンサートに行き、日本では今のご時世、絶対不可能な形でクラシックを聞きました。ドイツの曲になるとみんな立ち上がって花火を付ける光景に国の統一感があり、日本にない姿だなと思いました。

3 日目のホストファミリーデーでは朝ごはんを食べたあとに近所の小さいサッカーコートで兄弟全員とサッカーをしました。兄弟 3 人とも仲が良くサッカークラブに入っていない三男の子までサッカーが上手についていくのに精一杯でした。午後には、中世の戦争をモチーフにしたお祭りを見に行きました。そこでは伝統的な衣装を着て楽器で行進するなどして表していました。

ドレスデン 1 日目は記念館へ行ったり博物館に行ったりしました。特に博物館では本物の緑色のダイヤモンドを見ました。多少ライトで照らされているとしても人工では作れない輝きがとても眩しくすごい宝石でした。それに伴い警備も館内全体が厳重でした。ひとつひとつの建物が綺麗で何度見てもいいほどでした。夜に皆で鶴を折りましたが自分でも事前から数を確認しておけばもっとドイツメンバーとも交流ができたのではないかと思います。今となっては思い出の 1 つです。ドレスデン 2 日目は聖母教会とフォルクスワーゲン工場見学に行き、夜のスポーツ活動の時はビリヤードに似たピンボールをしました。聖母教会では貴重な体験を数多くさせて頂きました。フォルクスワーゲンの工場見学では多少高く怖かったものの製造過程が見られたりガラス張りの中を車が並んでいる所を中から見る事が出来たりととても楽しかったです。夜のピンボールは、自分の想像以上に難しく思った通りの場所に行かなかったり、力加減が難しかったりとやりがいを感じました。ドレスデン 3 日目は山登りをしました。今までの人生

で高いところに行ったことはあるけども、あれほどまでに高い場所に行ったことはありませんでした。しかも崖になっているため少しでも視界に入るととても怖かったので道の真ん中か、壁がある方しか歩けませんでした。今考えてもあそこによく行けたなと思うと同時に 1 人では絶対に行けなかったです。登山を終えたあとのアイスと昼食はより美味しく食べることが出来ました。帰りのバスでは、自分はずっと寝ていたけども、後ろではパーティー並に賑わっていて楽しそうでした。

7日目はシティーラリーをした後、青少年の家でBBQ やスポーツをしました。シティーラリーでは日本人ガイドさんが説明をして下さり、自分たちのペースでより分かりやすかったです。ドイツメンバーが頑張っパパラッチをしている姿を見ながら歩いて解説を聞いたのは面白かったです。BBQ では、でかい鉄板で豪快に焼くソーセージとお肉は絶品でした。スポーツをしながら工作も何個かしたのでとても充実していました。ゲームを通してドイツ語の単語を学ぶ機会もあったので覚えやすかったです。8日目はサッカースタジアムの見学でした。芝生の上に立つことは出来ませんでしたがその周りのトラックを歩いたり走ったり、更には実際に使われているベンチに座ることも出しました。こんな貴重な体験は、この先生きていて叶うことはほぼほぼないと思うのですごくいい体験をしたのだなと今でも感じます。また、その後ホストファミリーと一緒に1FC ニュルンベルクの試合を見に行きました。試合前からホームの歓声や熱気がものすごく良かったです。相手チームもニュルンベルクチームの観客に比べとても少ない人数でしたがそれにもかかわらず負けにくいぐらいの歓声でした。惜しい結果にはなりましたが、それでも最後まで盛り上がりが凄かったので、次見る時は点を決めて勝つ試合をみたいです。

9日目は陸上のバジテストをした後、プールで水球をして、その後ビーチバレーをしました。陸上では立派なトラックでたくさん走ることができて気持ち良かったです。しかし、3000mはキツかったです。プールは、全然足がつかないぐらい深いプールだったのでただただ遊ぶのも大変でした。そんな環境での水球は難しく、浮いているのをキープするだけで難しく肩が簡単に出せなかったのでどうやって肩を水面から出してボールを投げているのか不思議に思いました。ビーチバレーはドイツとウクライナの青少年の人達が水球の選手のはずなのにみんな上手で一緒に出来て楽しかったです。

今回の交流を通して、今まで受入れだけで今回より毎回短い期間の交流の中で絆を作れていましたが約 2 週間といういつもより長い機会です。1日1日が濃いプログラムを通してより絆が深まりドイツが好きになりました。また、機会があったらドイツに行ってドイツメンバーと会いたいです。貴重な体験が山ほどあったので一生の思い出です。

【上井康雅】

8月4日から8月17日まで、僕はドイツのニュルンベルク市で、本当に貴重な体験を数多くすることができました。

まず、ドイツ到着当日には、ニュルンベルク空港で、ホストファミリーと対面し、そのあとウェルカムパーティーでした。僕は、日本で何回もドイツの子達を自分の家にホームステイとして受入れていたので、ウェルカムパーティーには何回も出席してきましたが、今回は初めて自分が招かれた側となり、いつもとは全く違う新鮮なウェルカムパーティーでした。特に、ウェルカムパーティーに行くまでの道のりが、パーティーとは関係ないのですが、日本とは全く違う景色を初めてみた瞬間だったのでとても、印象的で、車の移動中ずっと外を眺めていました。

2日目はニュルンベルク市の施設でスポーツバジテストを行いました。ドイツの青少年達と初めてまともに交流する機会だったので、とても楽しく、いい思い出になりました。特に、休憩時間にバジテスト以外でやった、キャッチボールや、バレーボール、サッカー、ハンドボールなどは、言葉がなくても楽しめるスポーツをみんな笑顔でコミュニケーションを取りながらやっていたことがとても楽しく、交流プログラムが始まったのだなとやっと実感しました。あとは、ドイツの人達はとにかく運動神経がいいと思いました。もちろん秀でてすごい子もいましたが、全員の運動神経がとても高いと実感しました。きっとそれは、スポーツが苦手だからやらない。これは無理だからやらないという思考が日本人と違って少ないからだだと思います。そう感じたのは、バレーボールをしていたときに、ソフィーという女の子と一緒にやろうと誘ったところ、「やる！でも私はバレーボール不得意なの」と言っていたからです。不得意だけど、笑顔で積極的にやると答えられる精神はとても素敵で、すごく気持ち良くスポーツができました。

ホストファミリーデーには家族に、ローテンブルグに連れて行ってもらいました。ニュルンベルク市も歴史的な街並みでしたが、ローテンブルグはそれ以上に歴史的で、まるで何かのテーマパークにいるように感じました。ローテンブルグを囲んでいる橋みたいなところ(城壁)を歩いて回ったのですが、思ったよりも街が大きく、道が長くて驚きました。そして、お昼にシュニツェルを食べました。初めてのドイツ料理で、期待と不安があったのですが、本当に美味しく、とても良いホストファミリーデーになりました。

ドレスデンに2泊3日で訪れた際にもたくさんの思い出ができました。初日はドイツの歴史を学びに行きました。ドイツというのは、自分が思うに、歴史的なものがそのまま残されていて、とてもヒストリカルな国だと思います。日本では、首都である東京でも、今では歴史的風景、雰囲気はほぼ消え去っています、しかし、ドイツではこの建物は何百年間もこのままなのだよ、という言葉がたくさん聞き、本当に歴史を大事に教わり、国民が大事に思っているのかなと思いました。日本の若い子たちにも必要な力なのかなと思います。また、緑の博物館では、とても多くの芸術作品を見ました、特にでかい緑のダイヤモンドは本当に忘れられないです。ドレスデンで1番思い出に残っているのは、聖母教会です。僕はこれまで教会に行ったことがなかったのですが、あの教会は他の教会よりも豪華なのだろうなと思わざるえないくらいすごい教会で、きっと何

時間も協会内においても新たな発見があり飽きないと思います。教会の演台で特別に聖書などを読んでいい機会をもらったので、ある文章を読みましたが、普通に発言するよりも、あの場で読んだあの文章は心に沁み、これからの人生で大切にすべきなのだと改めて実感させられました。また、地下の教会で行った平和についての話し合いでは、初めて異国の人達と戦争と平和について話を交えたのでとても良い経験になりました。

3日目には、みんなで山登りでした。とても良い運動になり、素晴らしい絶景を見ることが本当に忘れられない良い思い出になりました。しかし、幼馴染のとうま君と一緒に登っていて、彼は高所恐怖症なのでごくビビりながら頑張っている姿が本当に面白くて、その印象が1番強いのも事実です。

8月11日は、ニュルンベルクの市長訪問を行った後、施設でBBQをしてスポーツを楽しみました。高崎市長訪問とは全く形態が違い、よりラフに行われながらもきちんとするところはきちんとする、という姿勢に魅力を感じました。僕は日本のルールが厳しすぎると思っています。ドイツで見られる、このような面はとても参考にすべきなのではないかなと思いました。その後のBBQは本当に楽しかったです。BBQをした後、ドイツメンバーの女の子とバスケットボールをしたのですが、小出さんが言っていた「ドイツの青少年はいつでもどんなことでも本気に取り組む」ということを実感できました。自分がボールを持つと、腕をつかんで、放り投げてボールを取ったり、シュートを撃つのにジャンプしたら、背中を押されたりと、やる前に何しても気にしない？と言われて、もちろんと言ったのですが、想像以上でびっくりしつつ、とても楽しかったので本当にいい思い出です。

12日はニュルンベルク市のサッカースタジアムを見学しに行きました、とても立派なスタジアムでVIP席にも入れて本当に良い経験でしたが、ドイツの人達ほど、そのチームに愛着もなく、歴史も知らないのも、知っていたらもっと感動できるのになぁーっと思っていました。

13日はスポーツバジテストを再度行った後、水球をしました。スポーツバジテストでは、カホが怪我をしているのに3000メートルを走ると利かずに、補助役として一緒に走りました。嫌だったけど、それもいい思い出です。その後の水球ではあんなに冷たい水で、青少年達ならまだしも、おじいちゃん、おばあちゃんが泳いでいて、よく大丈夫だなと驚かされました。日本とは違い水深が2メートルあるプールで、おじいちゃん達がクロールをしていて、なんなんだドイツ人はと、日本の人はウォーキングだぞと、本当に驚きました。

14日は、山の方にある、ジップラインへ行きました。ドイツの広大な自然を上から眺められたことが本当に幸せで、気持ちよかったです。また、さよならパーティーもありました。さよならパーティーをした途端、ああもう帰るのかという実感が湧いてきて、ドイツロスを感じ始めました。

16日の午前中に行った、次の会議では、良いことも悪いことも沢山話し合えたので、

自分も関わる来年の活動に活かしていきたいです。

僕は、知っての通り、小さい頃からドイツでのこのプログラムに参加するのが本当に憧れでした。このような機会を味わえたことを本当に嬉しく思っています。なかでも 1 番感じたのは、小さい頃とは違い、ある程度コミュニケーションを取れるようになったので、今までのプログラムで 1 番楽しいものになったと思っています。来年みんなに会えるのが本当に楽しみです。小出さんや、ドリス、ミハエル、マリオ、お母さん、お父さんには本当に感謝しています。2 週間ありがとうございました。

【坂井花穂】

私は、行きの羽田空港で既にホームシックでした。その時 2 週間は長いと考えていました。しかし、ニュルンベルク空港に到着して、アントニアに再会した瞬間にその気持ちを忘れてしまいました。そこから 2 週間それを思い出すこともありませんでした。そして、アントニアのお母さんを見てとても安心しました。私は、その時からアントニアのお母さんを自分のドイツのお母さんと思い込んでいました。3 年間も再会を待ち望みました。忘れたことはなかったし、オンライン交流を重ねるたびにアントニアにまた会いたい、ドイツへ行きたい、その想いは増すばかりでした。ニュルンベルク空港では東京パラリンピックの金メダリストと交流することもできました。この前、東京でとったという金メダルを触らせていただきました。とても重く、価値のあるものだと感じました。ニュルンベルクのアスリートが東京で金メダルを獲得し、私がニュルンベルクでその金メダルに触れるということは、なんだか運命のように思えました。ホームステイ先のおうちに向かう車では BMW を乗りこなすお母さんに驚かされました。また、左ハンドルを初めて見たので感動しました。おうちに着いたら、ランチタイムだったので、ガーデンで食事を取りました。トルティーヤにヨーグルトを塗って野菜を乗せて巻いて食べました。ガーデンにはお母さんの愛する鳥達が餌を食べに来たり水を飲みに来たりしていて、とても自然を感じました。ドイツだからというわけではなく、アントニアのおうちだから、豪華で優雅な生活を送れたのかもしれないと思っています。午後はアントニアと 2 人で歩いて近くのお店を回りました。日本と違ってレジでカゴを使うのではなく、自分で商品を台に置いて、バーコードを打ってもらったら、台から自分で商品をバックに入れます。その上、レジ袋はなく、私が見る限り全員のお客さんがエコバッグを持参していて、こんなにも環境配慮が進む中で、ビニール袋を未だに使用している日本は少し遅れているなと思いました。夕方はウェルカムパーティーに行きました。アントニアは私を 3 年間も待った、私達はおうちに受け入れたことも、受け入れてもらったこともある、唯一のホストファミリー交換だと聞き、やっぱり私たちはベストペアなのだ実感しました。次の日の朝は、5 時に鶏の鳴き声で起きました。とてもいい朝でした。朝ごはんは昨日の午後に行ったパン屋さんで買ったナッツ入りのパンを食べました。パンとフルーツがメインでドイツの朝ごはんを初めて知りました。

スポーツバッチテストでは始めに柔道場でアップのために鬼ごっこをしましたが、あんなにも全力で鬼ごっこを楽しんだのは小学生ぶりだったのでとても気持ちが良かったです。日本の人達は遊びを全力でやらないので、遊びも全力でやるドイツの人達のスポーツに対する意識を尊敬しました。スポーツバッチテストの幅跳びや走り幅跳び、縄跳びではみんながバッチを目指して自分の記録を確認したりする姿がとても良かったと思いました。お昼ご飯はビックサイズピザを食べました。夕方おうちに帰ってお部屋に戻ると、外から愉快的なナイスミュージックが流れてきて、気分が明るくなりました。日本のおうちでは外から音楽が聞こえてくることはなく、もし仮に私がギターを使って弾き語りをしていたら、近所迷惑だと止めさせられてしまうと思います。音楽をみんなで楽しみ、みんなで盛り上げ、音楽をみんなで作っていくドイツの人たちのノリの良さを日本人はもっと真似ていくべきだと思います。次の日の朝ご飯はワッフルでした。ワッフルにヨーグルトを塗ってその上にフルーツを乗せてシュガーを振りかけて食べたらとても美味しかったです。ホストファミリーデーだったので、家族とたくさんお出かけをしました。ホストファミリーデーは日曜日だったので、ドイツではお店が閉まっていて、ショッピングはできなかったのですが、日曜日の朝ということで、教会に行くことができました。ドイツには日本にはないような、たくさんの素敵な教会がありました。お昼はドイツのトラディショナルフードを食べました。とてもビックサイズでした。午後はゴルフをしました。お父さんとお母さんがとても上手で、お父さんからコツを教わったりもしました。スポーツは、誰もが楽しめるので良いものだと思改めて実感しました。スポーツの後は疲れを取るためにアイスを食べました。家族みんなで食べて、とても美味しかったです。夕方はおうちに帰ってゲームをしました。ルールを教えてもらって、最初は聞きながらでしたが、最終的には良い勝負をすることができたので良かったです。夕食はアウトサイドでパスタを食べました。久しぶりに、麺を食べられた気がして嬉しかったです。アントニアのお母さんはとても料理が上手で色々な国の料理を振る舞ってくれるので、ドイツのメインディッシュのパンに飽きることなく生活することができました。また、お父さんが入れたくれたティーはとてもおいしかったです。希望通りにミルクを多く入れてくれました。とても優しいお父さんでした。夜もリビングのソファで寝ていたお父さんに写真を欲しいとお願いしたら、快くエアドロップしてくれました。次の日はドレスデンへ移動する関係があったために早くおうちを出ました。お母さんが作ってくれた美味しいお弁当をバスの中で食べました。バスの中からベートーヴェンを見ることができたのが印象的でした。30人しか住んでいないと言われている小さな街では今も壁や監視塔が残っていて、こんなにもそのままの状態が保たれているのは珍しいと思うので、見られて良かったし、これを忘れてはいけないと思いました。その後は宝物をたくさん見ました。金色に輝いていて、このジョッキでビールを飲んだら美味しいのだろうねと小出さんとお話ししました。夜はみんなと外でゲームをしました。人間を使って神経衰弱をしたのですが、とても面白いゲームだったので日本に帰ってから

みんなとこのゲームをして遊ぼうと思いました。次の日は朝から貸切で教会に入れさせてもらいました。日本ではあんなに大きくて高い教会は見たことがなかったので驚きました。2つの作品を見て、平和についてドイツの青少年達と一緒に考えて、意見交換をすることができたのはとても良い経験で貴重な時間でした。フォルクスワーゲンの工場見学は工場の職員がお休みだったため実際に作る過程を見ることはできませんでしたが、様々な視点から作られていることを知りました。その後のグループワークではドイツの人たちが案内してくれました。また、スターバックスに行きたいと伝えると連れて行ってくれました。夜はピットパットをしました。ゲームをしながら言葉を覚えたりするのが楽しかったです。ユースホステルに戻ってからは、カードゲームをしました。無言で静かに行うゲームだったので言葉の壁を感じることなく、楽しめました。次の日はハイキングをしました。とてもハードで疲れましたが登り切れて良かったです。この日の夜は照り焼きソースやご飯など、日本で普段食べているような食材が出てきてなんだか嬉しかったです。次の日の朝はトーストと目玉焼きを食べました。日本でも食べられる料理ですが、醤油などはないので何もつけずに食べました。食べ方の違いを学びました。サーモンも食卓に並んでいました。ドイツのお寿司屋さんは日本人ではない人がお寿司を握っているというお話が面白かったです。その日は、サッカースタジアムに行きました。試合前日にロッカールームに入れたり、メディアルームや牢屋やVIPルームに入れたり、VIP席に座ることができて、とても良い経験をすることができました。少しトラックを走りましたが、とても気持ちよかったです。その後はシュテファンさんがバーベキューで焼いてくれたお肉とチバチチを食べました。その後のバスケットボールやサッカーを楽しんで交流する姿はとても良いものでした。夜はラザニアを食べました。次の日の朝は再びワッフルを食べました。この日は、ニュルンベルクを歩き回りました。まるで登山のようでした。パパラッチという設定でドイツの人達がたくさん写真を撮ってくれました。お昼ご飯はニュルンベルク焼きソーセージを食べました。日本のソーセージよりも重かったです。アイスも食べました。濃厚なバニラでした。念願のシュタイフショップにも連れて行ってもらいました。その後は、ヒトラーがスピーチした場所に立ちました。立ってはいけない場所に立ってしまったような気がして少し怖かったです。お夕飯は高級なお店へ行きました。美味しいお肉とタコの天ぷらなどを食べました。ドイツが読めないなので、私のために、わざわざ調べて写真を見せてくれて、英語で説明してくれたのが嬉しかったです。次の日の朝はたくさんパンでした。その頃には上手にナイフでパンを切れるようになっていました。この日はスポーツデーでまず初めに100メートル走をしたのですが、手術後、初めて走ったので、うまく新しい靭帯を使いこなすことができずに転んでしまいました。みんなが助けに来てくれてありがたかったです。そんな状態だったので、3000メートル走は反対されましたが陸上を6年間やってきたアスリートとして、ドイツにまで来て、こんなにも素敵な競技場で走らないなんて勿体無いと思い、3000メートルもしっかり完走しました。補助に付いてくれたコ

ウガ君とトウマ君 2 人には本当に感謝しています。怪我が完治したら、全力で走りにまたここへ来ます。水泳では 3 年ぶりの水泳で、さらに足がつかない、そして冷たいプールだったので最初は戸惑いましたが、最終的には水泳を楽しむことができ、水球の試合をすることもできました。ビーチバレーボールは生まれて初めてやったのですが、とても楽しかったです。スポーツを通してウクライナを含め、3 カ国交流をすることができたので良かったです。この日のお昼ご飯もバーベキューでビックサイズのお肉を食べました。その日の夜はカレーを食べました。その後、アントニアと 2 人で小さなお祭りに行きました。とてもクレイジーな乗り物が仮設されており、ライトアップもされていて、とても楽しかったです。次の日の朝はグラノーラを食べました。小さなチョコが入っていて、とても美味しかったです。空港で PCR 検査をした後、パン屋さんで大きなマフィンを買いました。その後に、みんなと合流して、エアタイムという施設でトランポリンを楽しみました。ドイツの人の運動能力の高さに驚かされました。小さい頃から全力でスポーツを楽しみ、色んなことに挑戦してきたことが一瞬でわかりました。この日のお昼ご飯もまたラザニアを食べました。この日の夜は、さよならパーティーでした。ずっと着たいと言っていたドレスを着て参加することができました。スポーツバッチテストの結果はゴールドでした。世界で通用する身体能力なのかもしれないと自信がつかれました。お夕飯ではまたもやドイツの伝統的な料理を食べました。ダンスや歌を全員で楽しめたので良かったです。次の日の朝は歩いてパン屋さんに行きました。とても良い朝のお散歩でした。午前中は最後のショッピングを楽しみました。お昼はケバブを食べました。午後はボーリングとボッチャとトランプゲームをしました。この日のお夕飯はパスタでした。ラストディナーだったので少し悲しい時間でした。次の日の朝、食パンと卵焼きを食べました

ラストブラックファーストだったので寂しかったです。評価会では青少年達だけで話し合いをしました。多くの意見を述べ合うことができました。その後、公園で遊びました。そして、空港へ向かいました。ニュルンベルク空港で私は大泣きしました。ずっと我慢していたのです。それは、さよならパーティーの時に帰国することを実感してからずっとです。私は、その時までずっと泣きませんでした。最後まで全力で楽しめたかったし、また会えると信じていたので、再開を願い、笑顔でお別れしたいと考えていました。しかし、いざサヨナラパーティーが近づき、離れなくてはならない場所へ向かっているときに、歩きながら泣いてしまいました。本当に帰りたくありませんでした。もちろん日本の家族も大事です。それを超えてしまうくらいにドイツの家族と過ごした 2 週間が私にとってはとても大きく、様々な影響を与え、私を成長させてくれました。考え方、価値観を全て変えてくれました。私は、これをこれから先に活かしていきます。人生をかけてと言っても過言ではありません。だから、とにかく、ドイツの家族とずっと一緒にいたかったのです。家族と離れるなんて辛すぎました。私は、最後の最後まで粘り、1 番最後まで家族の元に残りました。日本の仲間と連れられ、搭乗口へ向かいました。

涙で前が見えず、寂しさでまともに歩くことも出来なかったため支えてもらいました。荷物検査を受けている間も後ろを振り返って、笑顔で見送ってくれるドイツの仲間を見ては何度も泣きました。大切なものをなにか失ってしまったかのようにも思いましたが、私は多くのものを手に入れていました。ドイツの仲間達がたくさん教えてくれたのです。そんな仲間を私は大切にしたいです。距離が離れていても、何十年も付き合っていきたいです。そして、この交流を終わらせないために、新町スポーツクラブの先輩として、貢献できるように活動していきます。

【寒河江 凜】

私は、今回のドイツ留学で様々な体験をし、たくさんのことを学んできました。その中で特に心に残ったのは、コミュニケーションの取り方についてとスポーツとの関わり方について、そして、平和とドイツの文化についての3つです。

1. コミュニケーションについて

私が今回の留学で一番不安だった事は、ドイツの人達と会話ができるか、英語が話せるかと言う点についてです。私は英語に対して苦手意識を持っていて、自分に自信がありませんでした。現に私はホストファミリーに初めて会った時、相手が何を言っているかわからず自分も何を話したらいいかわからなかったのでコミュニケーションがうまく取れず、私達の間的气氛はあまり良いものではありませんでした。しかし小出さんから言われた「全力で聞き取る」を意識して生活したら徐々に耳が慣れてきて、5日目の夜あたりから相手の伝えたいことがわかるようになってきました。そして間違ってもいいから伝える努力をするのがとても大切だということがわかりました。どうしてもわからない単語は調べて英語が得意なメンバーに聞き、その単語を意識して使う。これの繰り返しで2週間経った頃には少しですが基本的な日常会話ができるようになりました。ホストファミリーとの仲も深まり、毎日のディナーで会話をするのが楽しくなりました。特に楽しかったのは「たこ焼き」を教えたらみんながとてもびっくりしていたことです。この中にタコが入っているのだよと教えたら「そんな食べ物見たことない！」と言われびっくりされるとともに少し引かれました。シルヴィアは海鮮物が苦手と言うこともあってあまり食べたくはなさそうでした。

シルヴィアとは英語を使ってお互いの国の言葉を教え合うようになり、話せると言うことがこんなにも楽しいことだと再認識できるきっかけにもなりました。相手の考え方や気持ちを汲み取り、自分の意見を伝える努力をする。これができるようになったことが今回の留学の一番の成長だと思います。自分の考えを発表する場が多く、意見交換にたくさん挑戦できたことにも感謝しています。

2. スポーツとの関わりについて

スポーツを通じた交流は今回私が1番楽しみにしていた事です。事前研修で日本とドイツの違いについて学び、スポーツは誰もが人生を豊かにするために必要な手段であ

り「みんなのスポーツ」という考え方をしている。また、ドイツの人たちは何事にも一生懸命だと聞いていたので全力でスポーツを楽しめると思ってドイツへ行きました。

今回は団体スポーツがあまり行えませんでした。スポーツを通じた交流はとても楽しかったです。2日目に行った縄跳びではホストファミリーのペアや他の子と楽しめる構成になっていて、シルヴィアとの仲が深まり楽しかったです。楽しみにしていたプールは久しぶりの入水と水温の冷たさに耐えられず、手足が痺れ震えて見学することしか出来なかったのが悔しいです。しかし、初めて目の前で水球を見て、深いプールで沈まないように浮いている事にびっくりしたし、思っていた以上に激しいスポーツで観戦しているだけでも楽しかったです。

また、サッカースタジアム見学にも行かせてもらい今まで見る事が出来なかったVIP ルームや犯罪者が入る檻まで見せてもらい最高でした。ニュルンベルクのVIP席は皮で出来ていて、こんな座り心地の良い椅子で観戦出来たらどんなに幸せだろうと思いました。スタジアム内の芝生にみんなでゴロゴロしたのは良い思い出です。ふわふわで私もいつかこんな素晴らしい芝でボールを蹴ってみたいと思いました。

ただ、やはり残念だったのは今回の交流で団体スポーツの対決が殆ど無かった事です。楽しみにしていた日独のハンドボールやサッカーが出来ず、全力でドイツの子たちと競い合うことが出来なかったのが心残りでした。次の交流では団体スポーツの交流を多くして欲しいです。

3.平和とドイツの文化について

今回の交流でニュルンベルクの歴史を学ぶ機会が多くありました。特に感心したのは正門の紋章の意味です。自分の心臓を子供にあげているのはニュルンベルクの市は皆さんの為に頑張る、働くと言うのを表していて、ニュルンベルクは誰の支配も受けない町である。市民が自分たちで国を収めているという考え方はとても素敵だと思いました。また、ニュルンベルクは200年前に建築し直そうとしましたが、当時はお金がありませんでした。だからこのままの素敵な建物が残っているのは嬉しいことです。そして川があるのに狭くて船が動かせないので、建築においてのコストが10倍かかっていました。広場の一等地の建物に人々が建設をしている絵を描き、この苦勞を忘れないようにしようとしたのはとても感動しました。

ドレスデンの意見交換会では勇気を出して自分の意見を言うことが出来たのが大きな成長でした。そして自分以外の人達の意見を聞くことで新たに自分の考えを深めることが出来ました。小出さんが言っていた「自分の人生の半分は自分で決めているけど、もう半分は周りの影響」という言葉が深く刺さりました。また、自分と似ている意見も興味深く、今の日本が平和なのか？という議題で、私は平和だと思い自分の考えを上手く整理出来ないまま発言しましたが、温陽の「自分の観ている世界が自分の全てであるから、日本は平和である」という意見で、私が曖昧だった部分が確立され、良い経験になりました。

今回のドイツ留学で学んだコミュニケーションの取り方や、何事にも一生懸命取り組むドイツの人達の姿勢を見て今後の自分に活かして行こうと思っています。そして一つだけ意見を言うとしたら、来年の交流は、プログラムを多く入れるよりも日本とドイツの青少年がゆったり話し合う時間を増やして欲しいです。今回の交流は最高でした。私は来年どうなるか分かりませんが、都合が合えば是非来年も参加させて頂きたいです。

【指導者補佐・藤堂みく】

2017年の第7回ドイツへ派遣では団員として、今回の派遣では指導者補佐として参加させて頂き、2度目の派遣で良い経験をさせて頂きました。

そもそも私は新町ではなく岐阜に住んでいるので、1回目にドイツへ行くことができたのも奇跡的なことで、2回目があることは思ってもいませんでした。今回、交流に参加することができたことにとっても感謝しています。前は最年少で参加し、さらに新町に住んでいないのでみんなのことを良く知っているわけでもなく、そんな私がサポート役として行くことに不安がありました。しかし、みんなが当たり前のように受け入れ、助けてくれたので楽しく役割を果たすことができました。ありがたい気持ちでいっぱいです。

今回の交流を通して、異文化の中でコミュニケーションを取ることの楽しさと難しさを改めて実感しました。大学で2年間ドイツ語を勉強してきて、今回の交流がこれまで一番実践的にドイツ語を話したり聞いたり見たりすることができた場だったと思います。前回の交流では英語しか分からなかったのですが、今回はあちこちでドイツ語が聞こえてきたり見えたりする環境が新鮮でした。また、ホストファミリーをはじめ、ドイツのみんなにドイツ語を勉強していることを伝えると喜んでくれて、時にはドイツ語で会話してくれたことが嬉しく、彼らがドイツ語で話していることが理解できたり、自分のドイツ語を理解してもらったりとコミュニケーションが取れた時は勉強してよかったなと思う瞬間でした。同時に、「まだまだだな」、「もっとドイツ語ができるようになりたい」、「勉強しよう」とドイツ語学習へのモチベーションも高まりました。10月からの留学では、ニュルンベルクではない都市で1人生活していかなければなりません。今回留学前にもう1度ドイツへ行くことができ本当に良かったです。

また、今回の交流で私は指導者補佐でありながら、より団員のみんなに近い立場だったので中間ポジションにいることは、時には大変でしたがやりがいがありました。交流を良いものにするには、何事も全力で楽しむことが重要なポイントの1つであり、自分が主体的に動いて楽しむことが大切であると思います。しかし、同時に他のみんなも楽しく過ごせているか、体調は大丈夫かなど常に周りを見ることも必要なので、今回はそのバランスを保つことが難しかったです。交流中、ドイツのメンバーともコミュニケーションを取りながら、新町メンバー、大津メンバーも大切にしたいと思っていました。全力を尽くしたつもりですが、今回特にタイトなスケジュールでプログラムが進んでい

き、前回のようにフランクフルトで1泊することもなかったので、もう少し1人1人と話すことができる余裕があったら良かったなと思います。

今回はスポーツという観点でも、自分にとって今後につながる良い経験ができました。私は、今大学のゼミでドイツのスポーツクラブ (Sportverein) をテーマに研究をしたりドイツ語でレポートを書いたりしています。前期のゼミでは、ドイツのスポーツクラブの大まかな歴史や仕組み、現状などについて研究し、まとめました。その際、ちょうどスポーツバッジテストについても調べていたので、今回の交流でバッジテストを自分の目で見て、さらには実際にテストを受けることができたのは有意義な時間でした。アルトドルフの体操クラブでは、柔道場をはじめとする整ったスポーツ施設を見たり、クラブの大半はボランティアで成り立っていることを聞いたりして、ほんの一部ではありますが、日本で学んだことを現地で確かめることができました。また、外でやっていたハンドボールの試合を見て、多くの人が年齢や性別関係なく楽しんでいる姿が印象的でした。これまで色々なスポーツをやってきて振り返ってみると、学校の体育や部活では男女で分かれていたり、なかなか同世代以外の人たちと関わりを持ってスポーツをする機会がなかったりと限られた環境でスポーツをしていたのだなと感じました。当時は自分が置かれていたスポーツ環境が普通であると思っていたので、ドイツ人のスポーツをする姿を見てこんな楽しみ方もあるのだと実際に知ることができました。そして、勝利至上主義ではなく、楽しむためにスポーツをする感覚は日本人が学ぶべきことであると思います。ゼミのテーマは卒業まで続けたいので、留学では研究を続けながら実際にドイツのスポーツクラブに入ってスポーツを試してみたいです。

青少年同士の国際交流では、言語が分からなくても充分仲良くなれるとは思いますが、言語が分かることで自分が理解できることの幅が広がり、お互いの心の距離もより近くなるような気がします。5年前、高校1年生だった私は今とは全く違う進路に進もうと考えていましたが、ニュルンベルクへ行ったことで「もっと英語が話せたら楽しそうだなー」と思い進路を考えていたらいつの間にか「ドイツ語もやろう」となり、ここまで来ました。国際交流には青少年の人生が変わる可能性、大きな影響があると思います。今後、国際交流を継続していくに当たって言語の面で少しでもサポートできる存在になれるよう、留学も含め勉強を今まで以上に頑張りたいです。

今回の交流は、2度のオンライン交流を経てやっと会うことができたので、実際に会ってこそできることや、コミュニケーションの取りやすさ、対面の素晴らしさを改めて感じました。そして、もっとドイツの文化を知って体験することができました。来年の夏、日本での交流では自分達がドイツで学び、楽しんだようにドイツのメンバーに日本のことを好きになってもらいたいです。そのために日本の歴史や文化について正しく説明できるように知識を深める必要があると思います。留学は、外から日本を見ることが出来る良い機会です。日本の良い面も改善するべき面もしっかり学んでいきたいです。来年の8月は留学直後で、就活などもあります。できる限り準備の段階から参加して青

少年主体の交流となるように貢献したいです。コロナ禍ということもあり、準備からプログラムを最後まで安全に実行することは大変であったと思いますが、交流を実現させて下さった指導者の方々や受け入れてくれたホストファミリーの方々の協力、国や市の支援があってこそできたことだと思います。たくさんの人のおかげで成り立っていることに感謝し、この交流がこれからもずっと続くよう、人との繋がりを大切にしていきたいです。

【指導者・富田拓夢】

私は、今回ニュルンベルク青少年国際交流派遣事業に小出さんの指導者補佐として参加しました。ニュルンベルクとの国際交流は私が小学生の時から続けていて、私の家では6回ドイツの青少年を受け入れています。ニュルンベルクに行くのは今回が2回目で2017年の5年前は大学6年生として参加し、今回は群馬大学病院で薬剤師の仕事をしながら、指導者枠で参加させていただきました。コロナ渦の中で海外へ行くことは、最初は難しいのではと思っていましたが、参加するために必要な許可を家族や仕事の同僚、上司、副部長、部長、病院長に許可していただき、参加することができました。早い段階（2022年5月中旬）に長期休暇の手続きを行いかつ周りのサポートもあって参加することができました。

ニュルンベルクの青少年国際事業に参加して得られたことは、ニュルンベルクの青少年との交流だけでなく、新町の若い世代（高校生、大学生）や熊本県大津市、岐阜県、山形県との繋がりができたことです。普段の生活では出会う機会がない、若い世代の青少年とニュルンベルクの国際事業を通して出会えたことが参加した1番の財産です。今回参加した青少年とは今後も縁を大切にしていこうと思います。ニュルンベルクに参加して新しいホストファミリーに迎えられて、新しい家族ができました。また5年前に出会ったニュルンベルクのホストファミリーとも再会することができ、時間が戻った感覚がありました。ニュルンベルクに到着して感じたことは、ドイツでは、2022年8月現在コロナ感染症は流行していますが、マスクは公共交通機関を利用する時のみ使用し、それ以外の外や室内、レストランでは、マスク着用の義務はなく、ほとんどマスクをしている人は見かけなかったことが1番驚きました。日本と真逆の世界にきた感じがして、コロナのない日常生活に戻った感覚はありました。マスクをしていない生活は顔の表情まで確認でき、息苦しくない生活であると感じました。日本でもコロナが落ち着いてきたら、徐々にマスクのない日常生活に戻っていけることを望んでいます。ドイツでは抗原抗体検査キットを配布されて3回実施し、日本に帰る前72時間以内にPCR検査を実施しました。いずれも結果は陰性でした。ドイツに来るまで抗原抗体検査キットもPCR検査も受けたことがなかったので、初めての経験になりました。ドイツの学校ではここ2年間、抗原抗体検査キットは学校がある日は毎日実施していたとホストファミリーに聞きました。抗原抗体検査キットを日本では毎日行うのはできないし、今

回配布する分の検査キットを集めることも大変であったと思います。コロナに対する政策は真逆ですが、ドイツでの生活は息苦しさが日本より少ないと感じました。ドイツでは6週間の夏休みがあるそうで、その期間に今回の受け入れを行っていました。日本では学生は夏休みが約1か月はありますが、仕事をしていると、2週間長期で休める職場はごく少数のように感じます。休暇の制度もドイツの方が良いと感じます。休暇をとることで、日常生活にメリハリがでてくるので、ドイツの休暇の制度は非常に良いと感じます。

今回はプログラムがタイトで毎日が時間に追われているような日本の生活に似た感じはしました。プログラムの中でスポーツバジジテストを実施し、決められた時間はスポーツ活動を実施していなければならないといった制約があったことも要因であると考えられます。食事の時間や買い物の時間、自由に観光する時間が十分にとれない日もあったので、プログラムの中に時間の余裕（フリータイム）があった方が良いと感じました。逆にこれだけのスケジュールは日本ではできないと感じました。このことは指導者意見交換会で話しました。

日本、ドイツの両方の若い世代の高校生、大学生に刺激を受けました。今回のテーマは戦争と平和で、日本もドイツの青少年もはっきりと自分の意見や考えを伝えていたのが印象的でした。それぞれに考え意見があり、どの意見が正解はなくて、自分の考えを相手に伝えて相手のことを分かり合おうとする気持ちが大切であると感じました。相手の意見を分かり合おうとすれば、少しずつ平和に近づいていく解決策が見えてくると感じました。以前、日本人は意見が少ないと言われていたけれど、今回参加した日本の青少年はしっかりと自分の言葉で意見交換ができていたので、刺激を受けました。また、今回様々な小さなトラブルやハプニングが起きましたが日本とドイツのメンバーで協力して、問題を解決してきたことが印象的でした。多少の問題が起きたとしても、チームで協力していければ、解決できることを今回の青少年は示してくれました。今の日本は生きづらい世の中になっていることの解決策として、“小さな協力”（例：重い荷物を持っていたら持ってあげる。困っている人がいたら、一声かけてあげる。怪我をしている人がいたら、全力で周りがサポートしてくれる。喉が痛い人がいたら喉飴をくれる。悩んでいる人がいたら相談に乗り解決策を考える。）ができていれば、少しは余裕のある生活に変わっていくのだと感じました。これはドイツでも日本で生活していても同じことで、“小さな協力”を日常生活で忘れないことが大切だと感じました。

今後、この国際交流を継続するために自分が何をできるか、正解はないと思います。今回ドイツでホストファミリーに受け入れてもらい良かったことは2023年に来た時におもてなしをして悪かった点、スケジュールがタイトすぎる等は改善する必要があると考えます。また、今回参加したメンバーとも連絡をとり、自分が今回参加したから良いではなく次の世代が行きたいと思えるように経験を伝えていくことも必要であると考えます。今回参加して私自身人生の中で大きな体験でした。本当に2022年の8月

に今回のメンバーとドイツに行けて良かったと感じます。最後に指導者の小出さん、新町の高校生（ちはる、ゆいちゃん、さきちゃん、たくみ、はるひ）、大学生の団員（とうま、こうが、かほ）、熊本県大津市の（しゅうさん、りょうかちゃん、りこちゃん、みづきちゃん、はるなさん） 岐阜のみくちゃん、山形のりんちゃん、ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。熊本県、岐阜県、山形県には私自身行ったことがないので、次は旅行で行きたいと思います。現地に行ったときには、ガイドをお願いします。忘れないうちに行こうと思います。新町に来る時は観光案内するので、いつでもご連絡ください。しばらくは群馬の地で働いていると思います。本当にありがとうございました。



第8回ニュルンベルク青少年国際交流派遣事業を終えて

引率責任者 小 出 利 一

8月4日～8月17日(熊本県大津町の皆さんと山形県の寒河江さんは18日)で標記の交流事業を実施することができました。コロナ禍で交流が2年延期され、5月に実施をすることを決定しましたが、航空運賃の高騰、7月後半になってからは日本のコロナ感染爆発と何度も実施することに対して迷いがありましたが、私の信条として「迷ったらGo」を貫きました。しかし、ニュルンベルク市で交流期間中も受入れてくれた関係者が抗原検査キットをたくさん用意する等の感染対策を施して安全に安心して交流ができるように配慮してくれていることをドリス宅で目の当たりにしたので、こんなに大変な受入れをしてもらって良かったのか?と再び迷い、悩み、訪問すると判断したことが正しかったのかと問い続ける日々でした。

このことを救ってくれたのは、交流に参加した青少年達の行動でした。今回の派遣団員も先輩団員の伝統を引き継いで、助け合い、時間を守り、常に笑顔で交流してくれました。今回の交流は、延期されていたこともあってスケジュールがかなりタイトな状況となっていたため、食事の時間が短い時もありましたが、そのことに不平不満を言う団員はなく、「新町で、イベントやっている時はいつもこんな感じでしょう。」と笑顔でなんなくやり遂げるたくましさがありました。

また、お互いに助け合い、新町メンバーと大津メンバーも地域の壁もなく、素晴らしいチームワークで、見守っている私は大人が見習うべき行動だと感じました。

今回の交流が良い交流になったことは、帰りの空港でのホストファミリーの皆さんからの言葉が表しているので紹介します。

「トシ、こんなに素晴らしい青少年を私の家族へ連れて来てくれてありがとう。本当に帰したくない。」「優しくていつも笑顔で、何でも食べてくれて、子どもの面倒も見てくれて私にとって自慢の家族が日本に出来たことがうれしい。本当に帰ってしまうことが淋しい」、そして、多くのホストファミリーのみなさんから「トシ、私達はこんなに素晴らしい青少年をたくさんニュルンベルクに連れて来てくれたあなたに感謝している。来年は、私達の子どもが日本に行くので頼みます。」まさに、過去7回の派遣団員が残した足跡を踏襲してホストファミリーから愛された団員達の活躍でした。

団員の皆さんには、今回の経験を後輩たちに語り継いで、来年の受入で今回の恩返しの一歩を歩んでくれたら最高です。そして、この経験を今後の人生に活かして地域で活躍できる人に育ってくれたらもっと最高です。

ニュルンベルクの皆さん、コロナ禍の中を日本の青少年達に素晴らしい体験をさせていただき心から感謝いたします。ありがとうございました。

来年、新町と大津町でお待ちしています。

第8回ニュルンベルク青少年国際交流派遣事業ハプニング特集

- - 数々の困難を乗り越えた今回の交流 - -

1.8月3日 山形県と新潟県の日本海側の線状降水帯によって羽越本線が運行停止

8月4日 寒河江さんの移動方法を午前4時から指示して、12:50 発の便で羽田へ向かうように指示。お昼ごろの羽田空港周辺の雷雨のため庄内空港の出発時間が約2時間遅れて15:30 ごろ羽田空港へ到着

2.熊本からの搭乗予定便が突然キャンセル

8月4日 15時ごろ、高崎線で移動中にANA あきんどの宮里さんから着信があり、熊本組の搭乗予定便が羽田空港の雷雨の影響でキャンセルになった連絡があり、直ちに樋口さんへ連絡し、直ちに熊本空港へ向かって、1便早い便が遅れているので、その便に振替えてもらうので搭乗するように指示。これは、大津町が空港に近いからできた芸当。14:50の便が遅れて16:10に出発したので無事に羽田へ

3.熊本組の荷物がロスト

熊本空港でスーツケースを羽田空港でピックアップしなくて良いと案内を受けた。そのため、イスタンブールへ向かう便に搭乗直前に、チェックインも終わっていない、荷物は第2ターミナルに残っていると搭乗口で言われた。搭乗直前に判明したことで、ANA あきんどの宮里さんへ連絡して翌日の便に搭載するように依頼して、その場合は、とにかくチェックインして搭乗

4.スーツケース到着の連絡がない

ニュルンベルク空港からスーツケースが届いたと言う連絡がなく、私とミハエルで相談して、シュテファンと通訳の里美さんと熊本組4人を連れて空港へ突撃。シュテファンの粘り強い交渉でスーツケースを探し出してもらい1日遅れで手元にスーツケースが届いた。

5.パスポートがない

羽田に無事に到着し、検疫に向かったところ1人の団員がパスポートを紛失したかもと連絡があった。飛行機内か荷物のどこかにあるはずと空港関係者に飛行機内を探してもらうように指示。無事に飛行機内で発見して手元に戻り、無事に帰国。

6.ギターがない

帰国便で荷物をピックアップしていたが、ギターがないので係員へ連絡。同じ便に3本のギターが搭載されていて間違えてピックアップされていたが、無事に手元に戻った。

これだけのハプニングを全て、ギリギリセーフで誰かに守られているとしか思えない今回の派遣交流でした。このほかにも、とても微笑ましいハプニングもありました。

追悼 ハイディさん・ギュンターさんご夫妻

今回の訪問は、日本とニュルンベルクの青少年国際交流に心血を注いで育て頂いたハイディさん(7月7日突然の心筋梗塞のため逝去)とギュンターさん(7月12日逝去)を偲ぶ訪問になってしまいました。

お二人の存在無くして、日本とニュルンベルクの青少年国際交流はありません。

お二人は、ニュルンベルクスポーツユース本部長としてご夫妻でご就任して、この青少年国際交流を育ててくれました。

私は、ご夫妻と1993年9月初めてニュルンベルクをスポーツ少年団指導者研修会で訪問した時に会いました。そして、1999年から新町としてニュルンベルク市との国際交流を始めてからは「ニュルンベルクの両親」のような大きな存在でした。

1999年初めて私の家に滞在したギュンターさんから「トシ、青少年国際交流を長く継続するためには、良いことは良い、ダメなことはダメとはっきり言いあえる仲になることが大切。そして、お互いにルールを守って信頼関係を構築すること。」と教えてくれました。私は、このことを信念として青少年交流を行っています。

2003年の訪問、私が母を亡くして初めての訪問時は空港で黙ってお二人で強く優しく抱きしめてくれました。前回の訪問(2017年)時も父親が危篤状態と知ったお二人から「トシの父親は、あなたを待っている。信じることだ」と優しく話してくれた。そんなお二人を突然亡くした私にとっての今回の訪問は、自分の想像をはるかに超える精神的ショックがありました。ニュルンベルクのどこを歩いてもお二人との思い出があり、自然と涙が溢れました。心が張り裂けそうになる悲しみの中での訪問でした。そんな私をそばにいた青少年達の笑顔が救ってくれました。新町の団員は、私がこんなに何度も泣いている姿を見たことはありませんが、団員達はそのことに触れることなく、そっと見守ってくれました。本当に心優しい団員達です。

今回、何度、バイエルンブルーの青空を見上げたろう。そして、なにかハプニングあるたびに、ハイディさんとギュンターさんと自分の両親に団員達を守って欲しいと願いました。この交流に心血を注いだ4人が見守っているのだから絶対に何とかなると信じて過ごした2週間でした。

異国の人でも本当の家族のようになれる。だからこうしたことが起きると本当に悲しい。でも、今回出会った人たちが長く、仲良くなって欲しい。

お二人の娘さんのクラウディアさんからプレゼントされたお二人の笑顔の写真を両親と並べて飾らせてもらった。心を込めて感謝して。

ハイディさん、ギュンターさん29年間ありがとうございました。

どうか、安らかにお休みください。

私も私たち家族も過去、ニュルンベルクでお世話になった新町のメンバーもお二人を忘れません。 フィーレン ダンケ ハイディ&ギュンター

2022年8月19日 新町の息子 小出利一

8月11日 指導者会議

出席者 マリオ夫妻、ミハエル、ドリス、ナターシャ、マックス

小出・樋口・富田・(通訳)紅子さんと里美さん親子 (敬称省略)

議事概要

【ニュルンベルク側として】

1. 2020年の夏から延期になっていた日本からの訪問を受入れることができ大変うれしい。
2. 昨年の夏と冬にオンライン交流を行い、交流を継続したことが良い結果となった。準備は大変だったが実施して良かった。
3. 2011年の東日本大震災の時も交流を止めなかったことが良い影響になった。
4. 大津町の指導者が急遽、桐原さんから樋口さんに変更になっても円滑にできて良かった。
5. 市長表敬訪問で日独交流の質の良さを市の幹部が高く評価して大感激をしていた。その理由として、礼儀正しい対応と青少年の対応の良さがある。

【8/5から8/11までの事業について意見交換】

1. 樋口指導者

コロナ禍の中で様々なプログラムを提供していただき感謝している。

ドレスデンにおいて、一部のニュルンベルク市の青少年がたばこの購入をしていた。

この交流では、お酒と喫煙については禁止しているはずであるが、このような行為によって日本側の青少年達が戸惑い、困惑していたので今後は、ルールを厳守するように指導願いたい。

2. 富田指導者

ホストファミリーの男女比の関係で、女の子が男の子の家にお世話になっているケースで一部、円滑にコミュニケーションで取れていない状況にある。できる限り、女の子は女の子に家で受け入れていただくとありがたい。

3. 小出指導者

コロナ禍の中で受入れていただき、心から感謝している。そして、交流期間中も安心を得るために抗原検査を実施していただけることは、私達とすると安心して交流できるので大変助かる。

飲酒と喫煙については、ルールを厳守するように指導していただき、これは日本に来た時も同様に対応することを徹底していただきたい。

ホストファミリーの件は、今回の派遣団員の男女比の関係もあるので仕方ない面がある。新町でホストファミリーを探す時にも同じ課題になるのでニュルンベルク市側の苦勞は十分に理解している。

来年のことについて、ニュルンベルク市として来日すると理解していて良いのか

4. ニュルンベルク側

喫煙については、ニュルンベルク側として調査して対応する。ルールが守れない青少年は、日本へ派遣しない。

来年のことはそちらから招待があれば是非、訪日したい。

いつもは、そのような質問がなかったと思うが、今回、なぜ、このような質問があるのか？

5. 来夏の訪日について

小出指導者から次のように回答した。

コロナパンデミックのため私たちの訪問予定に変更となった。

私達もなるべく通常のリズムに戻したいが、ニュルンベルクとしての考え方を確認したかったので質問した。

但し、現時点では具体的な日程を示すことはできないことは理解して欲しい。

来日する人数についても教えて欲しい。

以 上

第8回ニュルンベルク市青少年国際交流派遣事業指導者評価会

1. 日 時：2022年8月16日 10時～12時
2. 場 所：ニュルンベルク市スポーツユース事務局会議室
3. 出席者：ミハエル、ドリス、ナターシャ、マーク、アリーナ、樋口、富田、小出
4. 通 訳：高橋範子、里美さん

【評価会の議事概要】

(1) 日本側

① 富田指導者

今まで交流に関係した人達が今回のプログラムを作成してもらえたことを感謝している。

改善点としては、スケジュールがタイト過ぎて食事の時間がゆっくりできなかったこととホストファミリーとの交流の時間が少なかったこと。

サヨナラパーティーの時間も大人の話が長くて青少年同士の時間が短かった。

もっと青少年同士が交流できる時間を確保して欲しい。

② 樋口指導者

ドリスさんとナターシャさんのやりとりをそばで聞いていて、大変な受入れになっていることは理解できた。スーツケースの件もシュテファンさんに本当に助け

てもらえたことを感謝している。また、ポロシャツのロゴも考えられていて素晴らしいと思う。

青少年との連絡について、Wi-Fiなどがなくても連絡ができるようなツールがあると良いと感じた。もしくは、数人に1台のモバイルWi-Fiがあれば良いと感じたが金銭的な課題があることは理解している。日本は、ドイツよりもネット環境が悪いので、こちらでも考えないと感じた。

スケジュールがタイトだったことは確かではあるが、日本ではこのようなスケジュールはできないと感じた。

③ 小出指導者

今回の訪問は、こちらへ来る前から「本当に行って良いのか。大きな負担にならないか」と思いながら訪問した。交流期間中も「コロナ感染対策だけでも大変な受入れになっていることをドリスさんと常に一緒に行動しているので十分理解できた。正直心苦しく、本当に申し訳ない気持ちとありがたい気持ちと複雑な心境で交流をしていた。このような厳しい環境の中で受入れていただけとことに深く感謝している。

今回の交流テーマ「戦争と平和」について、普段国境を意識できない日本人にとって貴重な体験をして、ドレスデン聖母教会で日本、ドイツ、ウクライナ3カ国の青少年が意見交換できたことはとても良かった。

スケジュールがタイトだったことは私も感じていたが、私達がタイトと感じるということは、裏を返せば受入れている人達はもっとタイトになっている。

Wi-Fiの件について、今回、小出が1台だけモバイルWi-Fiをレンタルして持参した。容量無制限となると14日間で約4万円となり、派遣団員にこれ以上の経済的負担を掛けたくなかったため私がレンタルした1台で対応するように連絡していた。

サヨナラパーティーの件については、今回はハイディさんとギュンターさんが突然亡くなってしまうという特殊事情があったこと、前回のサヨナラパーティーは15時からケーキパーティーがあり、約1時間程度外でダンスなどを一緒にする時間もあって過去最も長いサヨナラパーティーだったことを考慮しなければならぬ。確かに、青少年の交流の時間が短くなってしまったが、ハイディさんとギュンターさんご夫妻の存在無くして、この交流事業はないことを踏まえて青少年達に伝えるべきことはしっかりと伝える必要がある。そこにジェネレーションギャップが生じてしまうが、交流の歴史から伝えるべきことは伝える必要があると考える。

次回は必ず改善して欲しい点は、日本グループが毎日10分程度のミーティング時間を最初から設定して欲しい点である。今回、これができなかったことは引率責任者として大きなストレスになった。派遣団員たちも連絡がLINEとなること

で確認するための時差が生じてストレスになっていた。引率責任者とする健康状態の確認、翌日のプログラムに対する伝達事項などミーティングは重要なことと理解して欲しい。新町で受け入れている時は、必ず、ドイツ側だけのミーティング時間を設けているので見習ってほしい。

私事ですが、今回、ニュルンベルクの両親のような大きな存在だったお二人が突然亡くなったことは、自分でも想像できないほどの精神的ショックが大きく、市内を歩いていてもお二人を思い出してしまい、精神的に辛い日々だった。それを癒してくれたのは、両国とウクライナの青少年だったので本当に感謝している。

④ ミハエルさん

今回の受入は、2年間延期になっていた特殊事情と東西ドイツ統一30周年という特殊事情から国、州、市の各方面から補助金を確保して運営した。総額約300万円の経費が掛かっている。補助金用途のルールとして1日6時間(食事時間を除く)の交流が必要であり、ホストファミリーデーも受入れ期間1日だけというルールがあるため、2回目がある理由を説明する必要があり、併せてドレスデンへ行く理由もDSJ(ドイツスポーツユース)へ説明が必要となった。

また、コロナ感染防止の観点でユースホステルの食事時間も通常45分(朝食時ランチボックスを作る場合は60分間)のところ全て30分間に制約された。

事務局として、ボランティアでマークさん、ナターシャさん、アリーナさん、ドリスさんがボランティアで仕事を分けて一緒に活動してもらえたことが良かった。

⑤ マークさん

今回の交流は期間中にコロナ感染もして他の業務も忙しく、あまり参加できなかった。他の人達が感染しなかったことが良かった。チームで行動できたこと。

事前にオンラインで日本側と準備できたことが良かったので、この方法は継続したい。

⑥ アリーナさん

まず、コロナ禍でもこうして交流できたことが良かった。日本の青少年達が全てにおいて興味深く行動してくれてありがたかった。ニュルンベルクの青少年達は来年の訪日を楽しみにしている。

⑦ ナターシャさん

自分としては、初めて受入を担当したが、ドリスさん達のサポートで楽しくできた。これで、3年前に日本へ行って、今回受入れて両方を体験できたことは素晴らしい経験となった。当初、良く知っている桐原さんだと思っていたが、突然、樋口さんとなって不安があった。しかし、樋口さんともとても良いコミュニケーションがとれた楽しい受入れとなった。

⑧ ドリスさん

専従のミハエルさんと私達ボランティアが協力してプログラムを実施することはドイツでもあまりない。こうしたことができるのは、伝統的な歴史があるからである。

【2023年の受入について】

2023年、大津町から新町。そして東京へ行けることは嬉しい。

渋谷区の受け入れ態勢に課題が、渋谷区と東洋大学と両方に小出から連絡して調整することにした。

ニュルンベルク側として、2022年12月15日まで予算要求を提出しなければならない。小出が東京受入れの件を調整して9月末ごろに1回目の打合せを行う予定となった。



【アルトドルフのスポーツクラブ】

2000人以上の会員で50種目。指導者は、2人だけ有償指導者(子ども達の複数種目を指導する人)で、他は無償ボランティア

スポーツとは?今日は、久しぶりに考えさせられる日になった。

スポーツバッチテストをしている隣でハンドボール大会が開催されている。

年齢、性別何も関係ないチーム構成。試合は真剣そのものでも、試合前から盛り上がってめちゃくちゃ楽しそう。

日本が今、学校部活動の地域移行で悩んでいることがバカらしく感じる。

楽しいスポーツの時間を地域で提供して、そこへ青少年だけでなく地域の人達が集える。そんな場所を提供すれば良いだけ。

【ドレスデン 聖母教会牧師さんからの講話】

ドレスデンは、1945,2,13 連合軍が進出。

地下に300人の市民が逃げていたが、翌日、地下なら外へ逃げて助かった。

聖母教会は、爆撃などで破壊された。

東ドイツの経済的な課題と共産主義とキリスト教の考え方の違いから50年近く瓦礫のまま

1990年、統一ドイツとなって、復元しようとなってたくさんの市民の協力を得るために公開意見状を发出(ネットの普及はまだ、発展していないため既存のメディアが頼り)して復元しました。10万人以上の人達が寄付をしてもらい、平和のシンボルとして、聖母教会を存在することになった。

2005年に現在のように復元できた。

【ドレスデン聖母教会 地下の教会にて シュナイダーさんの講話】

私は、瓦礫の中から引きずりだされた。25,000人が爆撃でドレスデン市民が亡くなった。それからどうしてと言う(なぜ自分が生きているのか?なぜ、友人が亡くなったのか?) 疑問が常にあった。

爆撃の後、ドレスデンとライプチヒの間の小さな村に避難した。1948年ソ連軍の戦車が自宅の近くを通過した。その日は、小学校入学の日。

戦車の砲が自宅に向いていたことを覚えている。教員が「もう2度と武器を持たない」と子ども達に約束させた。その約束を今も守っている。

1969年ギムナジウム入学時、自由意志で軍隊に入るようになっていたが、小学1年生の時の約束を守るために軍隊に志願することはありません。

9ヵ月間、校長はシュナイダーさんに志願することを勧めた。

ニュルンベルク市派遣団員日誌担当日と挨拶担当について

1.日誌担当

8/4と5 笠原君

8/6 上井君

8/7と8 滝沢さん

8/9 中尾さん

8/10 春山さん

8/11 小手川君

8/12 寒河江さん

8/13 水野君

8/14 坂井さん

8/15 坂井さん

全体の感想 派遣団員全員と富田・藤堂・小出指導者

2.歓迎会あいさつ

坂井さん

3.アルトドルフスポーツクラブプレゼンター

水野君と滝沢さん

4.ドレスデン聖母教会のあいさつとプレゼンター

あいさつ → 中尾さん プレゼンター → 小手川君

5.フォルクスワーゲン工場プレゼンター

笠原君と上井君

6.ニュルンベルク市市長表敬訪問あいさつ

あいさつ → 滝沢さん プレゼンター → 水野君と坂井さん

7.サッカースタジアムプレゼンター

寒河江さん

8.ドキュメントミュージアムプレゼンター

上井君と春山さん

9.さよならパーティーあいさつ

笠原君と小手川君

※あいさつとプレゼンターは、突然機会が増えることも減ることもあります。

増えた場合は、当然、突然挨拶などを指示しますので、いつでも挨拶をする心構えで
過ごしてください。

みんなで元気よく出発して、みんなでそろって笑顔で帰国できるように楽しもう。

【写真集】



2022

Sophie - Sylvia - Takumi - Takumu - Toma - Yui - Lukas - Max - Miku - Mizuki - Mykola - Chiara - Natascha - Antonia - Chihara - Chiharu - Nico - Nikita - Colin - Daniel - Richard - Riko - Rin - Ryoka - Sabrina - Saki - Shichiro - Hugo - Jan - Kaho - Koga - Leni - Albert - Alexander



Shinmachi



発行責任者：NPO 法人新町スポーツクラブ

理事長 小出 利一

連絡先：shimmachi.sc@gmail.com

090-3912-0043